

霧島市
子どもの生活に関するアンケート調査
結果報告書（概要版）

令和6年8月

霧島市 保健福祉政策課

I. アンケート調査結果

1. 調査の概要

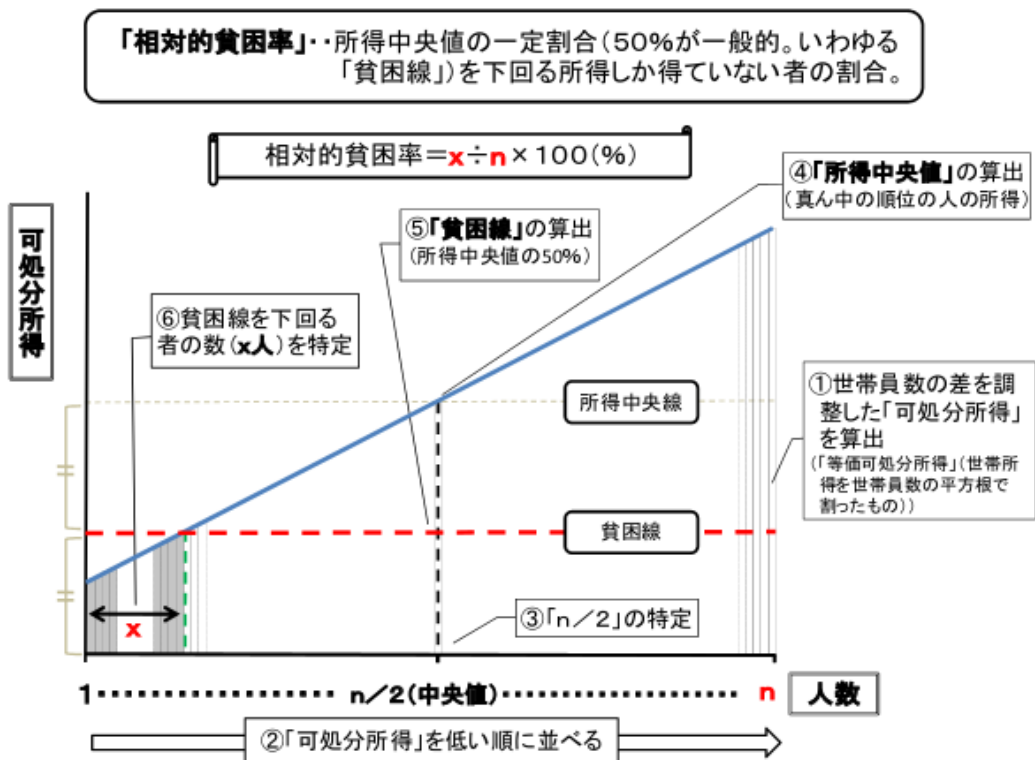
調査時期	令和6年4月～5月
調査対象者	市内の小・中学校に在籍する小学5年生と中学2年生全員とその保護者
調査方法	学校を通じた配布・回収
配布数	保護者及び児童生徒 2,435世帯 4,870件 (内訳) 小学5年生 1,211世帯 中学2年生 1,224世帯
有効回収数・ 有効回答率	保護者合計 1,978件 (81.2%) 児童生徒合計 1,966件 (80.7%) (内訳) 小学5年生1,013件 (83.6%) 中学2年生 953件 (77.8%)

2. 本調査における世帯収入別分類について

本報告書においては、世帯の年間収入の水準について、「子どもと同居し、生計を同一にしている家族の人数」（問3を参照）の情報も踏まえて下記のような処理をし、「等価世帯収入」による分類を行いました。

- ①年間収入に関する回答の各選択肢の中央値をその世帯の収入の値とする（例えば、「50万円未満」であれば25万円、「50～100万円未満」であれば75万円とする。なお、「1000万円以上」は1050万円とする。）
- ②上記の値を、保護者票問3で把握される同居家族の人数の平方根をとったもので除す。
例）「3人世帯」が世帯収入を「300～350万円」と回答した場合
【世帯収入】325万円 ÷ 【世帯人数の平方根】 $\sqrt{3}$
= 【等価世帯収入】187.6万円
- ③上記の方法で算出した値（等価世帯収入）の中央値を求め、さらに、その2分の1未満であるか否かで分類する。「中央値の2分の1未満である層」「中央値の2分の1以上中央値未満である層」「中央値以上である層」に分類した。（本調査における「等価世帯収入の中央値」は246.0万円）

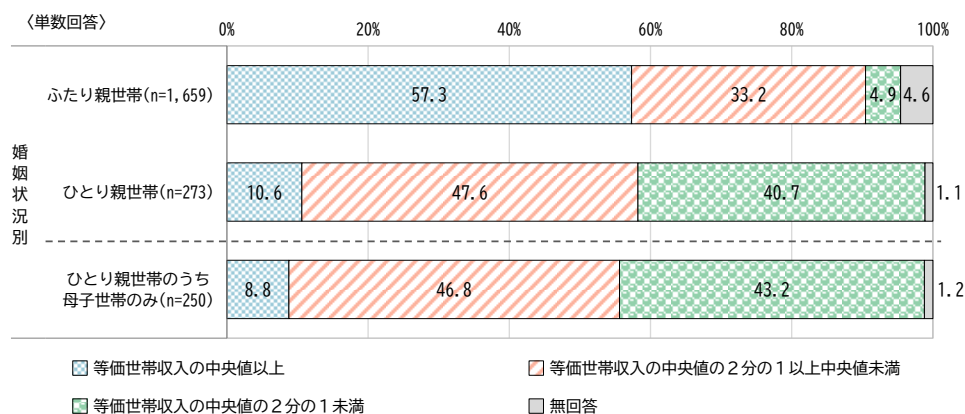
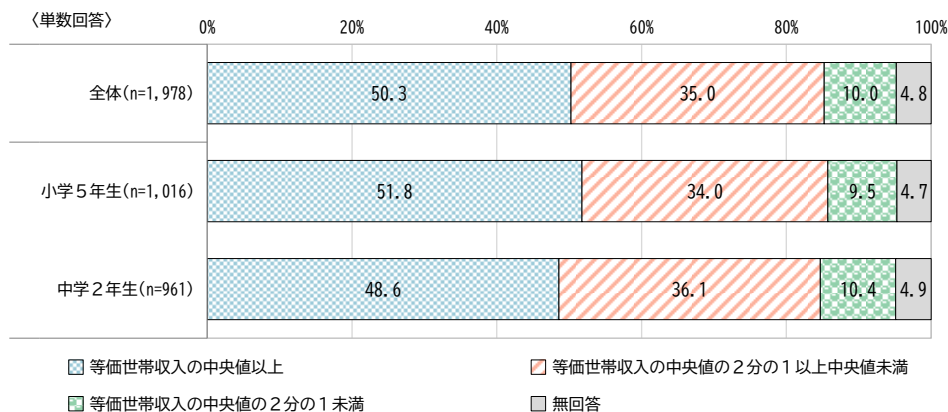
（参考）国民生活基礎調査における相対的貧困率算出方法



※厚生労働省公表資料抜粋

(保護者 問 38 及び問 3)

◇全体では、「等価世帯収入の中央値以上」が 50.3%と最も高く、次いで、「等価世帯収入の中央値の2分の1以上中央値未満」が 35.0%、「等価世帯収入の中央値の2分の1未満」が 10.0%となっています。また、ひとり親世帯の「等価世帯収入の中央値の2分の1未満」の割合は、40.7%となっています。



※「2021年国民生活基礎調査」(厚生労働省)によると、「子どもの相対的貧困率」は 11.5%となり、2018年の 13.5%より下がっています。また、ひとり親世帯の場合は、44.5%となっています。

3. 霧島市における検討すべき子どもの貧困対策

- 本報告書では、保護者・子どもの生活状況について、「等価世帯収入」の水準と「親の婚姻状況」別に比較分析を行いました。分析の結果、世帯収入の水準や婚姻状況によって、子どもの学力や生活状況などに影響を及ぼしているとともに、保護者本人においても生活状況や精神状態などに影響を受けていることがうかがえました。

- 「等価世帯収入の中央値の2分の1未満」の世帯において、「家庭の経済的な状況からみて子どもの進学が希望どおり進むと思わない」、「子どもの学習意欲にこたえられなかった経験があった」と回答した保護者の割合がその他の世帯より高くなっています。

また、保護者の収入が少ない世帯の子どもの授業以外での学習習慣や成績、授業の理解度の割合が低くなっています。親の経済的貧困は、子どもから学習や体験の機会を奪うことにつながります。これらの教育機会の格差は子どもの学力格差や進学格差を生み、将来的には職業選択にも影響を

及ぼすことが考えられます。このような貧困の世代間連鎖を解消するためにも「就学援助」などの経済的な支援のほか、大人との多様な人間関係の中で自発的な学習習慣を身に付けることができる教育の支援が求められています。



- 保護者の収入が少ない世帯の方が、子どもの朝食の欠食割合や、学校の欠席割合が高くなっています。「等価世帯収入の中央値の2分の1未満」の世帯では、「生活リズムのみだれ」を主な欠席の理由と回答した保護者の割合が他の世帯より高くなっており、基本的な生活習慣が身につけていないことが伺えます。また、「等価世帯収入の中央値の2分の1未満」の世帯や「ひとり親世帯」では、学校行事や社会参加の割合が低くなっていることから、保護者が時間に余裕を持つことができるような環境を整備するとともに、地域と触れ合える場や機会が必要となっています。

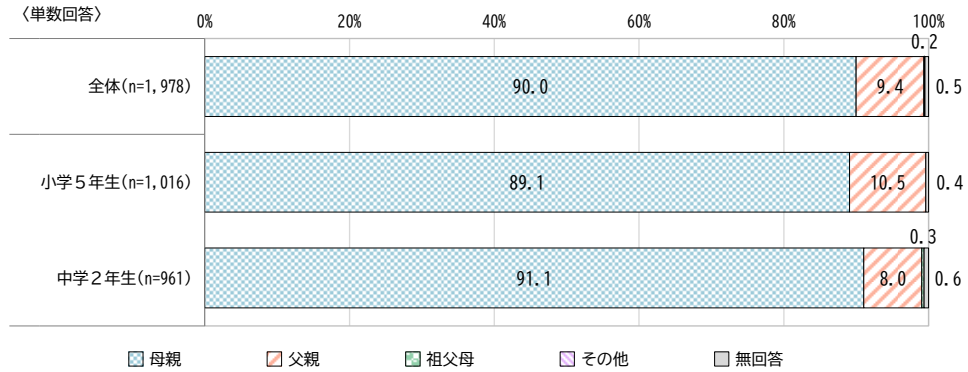
- 収入が少ない世帯において、心理的な負担を抱えている保護者の割合が高く、生活の満足度も低くなっています。このような保護者の精神的な状況は子どもに与える影響も大きいと考えられることから、信頼できる包括的な相談体制が求められています。

- 「ひとり親世帯」や非正規で就労している世帯の収入が少なくなっていることから、職業生活の安定と向上に資するための就労の支援が必要となります。

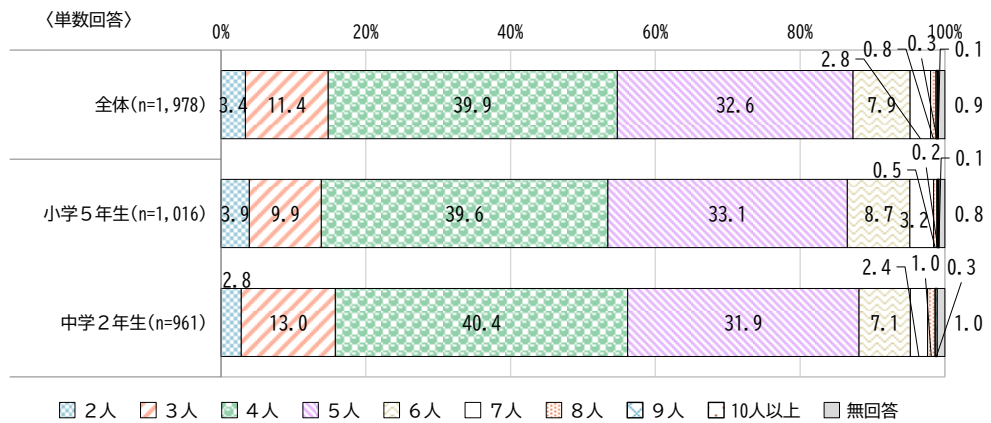
4. 主な回答結果（保護者調査）

（1）回答者（保護者）の状況

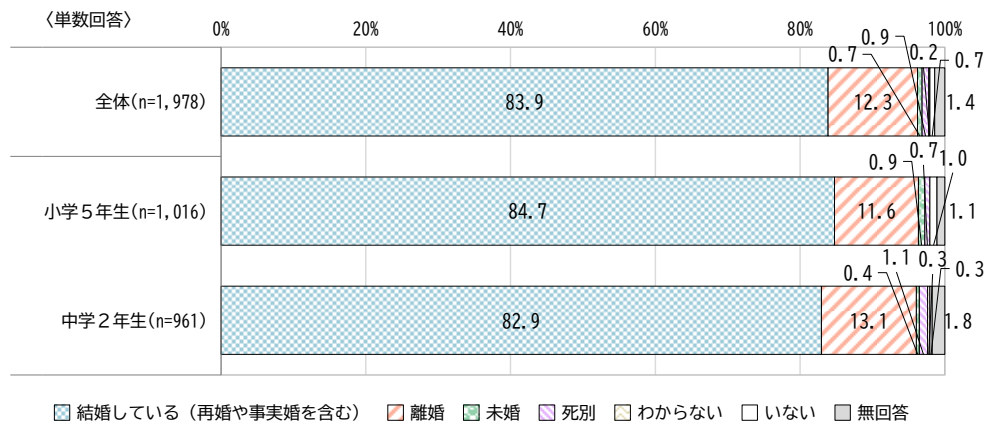
■回答者（保護者 問1）



■家族の合計人数（保護者 問3）



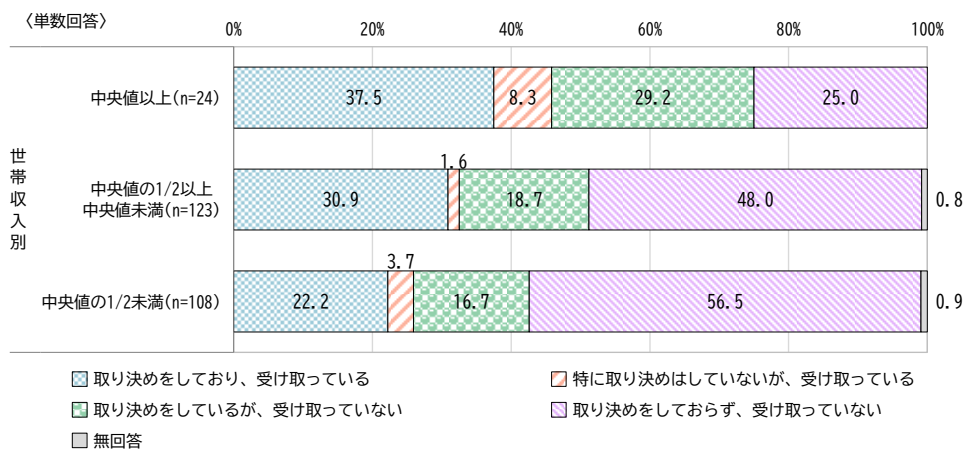
■婚姻状況（保護者 問6）



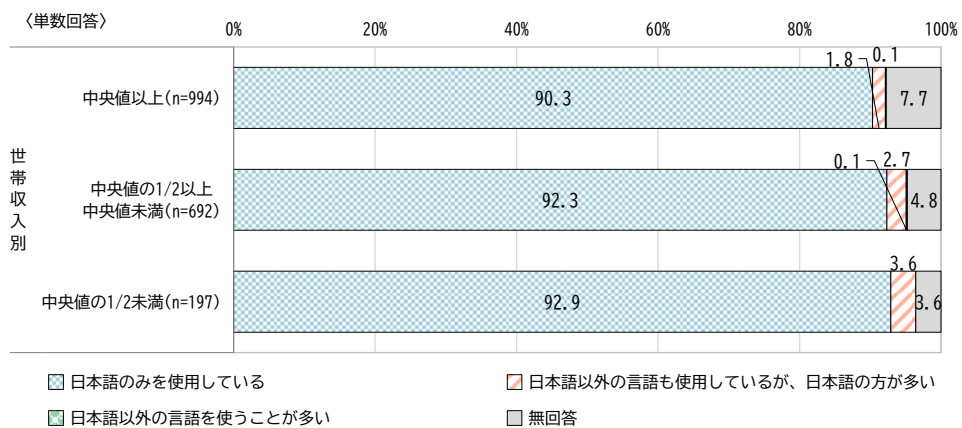
- 子どもの養育費を受け取っている（「取り決めをしており、受け取っている」と「特に取り決めはしていないが、受け取っている」の合計）割合を世帯収入別にみると、「中央値の1/2未満」の世帯では25.9%と他の世帯より低くなっています。
- また、「中央値の1/2未満」の世帯の「取り決めをしておらず、受け取っていない」割合も56.5%と5割を超えています。
- 「日本語以外の言語を使うことが多い」割合は、「中央値の1/2未満」の世帯で3.6%となっています。

■子どもの養育費の取り決め、受け取りの状況（保護者 問7）

※問6で「離婚」・「未婚」と回答した方のみ



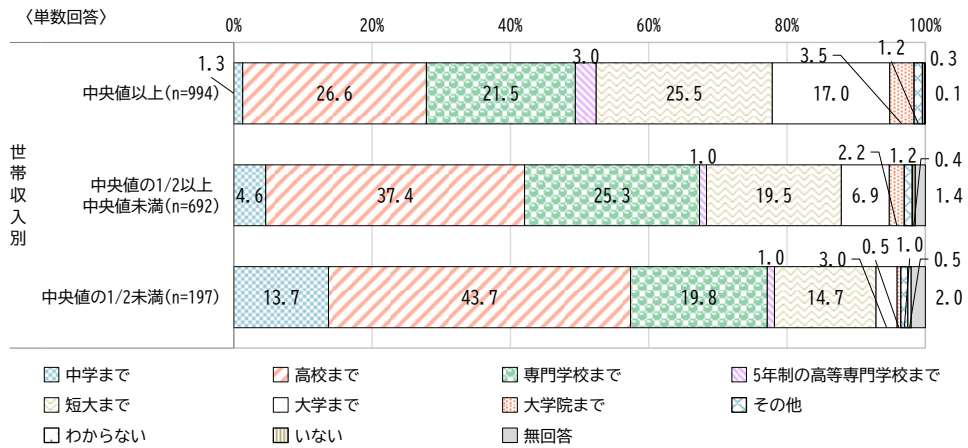
■家庭における日本語以外の言語の使用状況（保護者 問8）



○親の学歴が、世帯収入に影響していることがうかがえます。

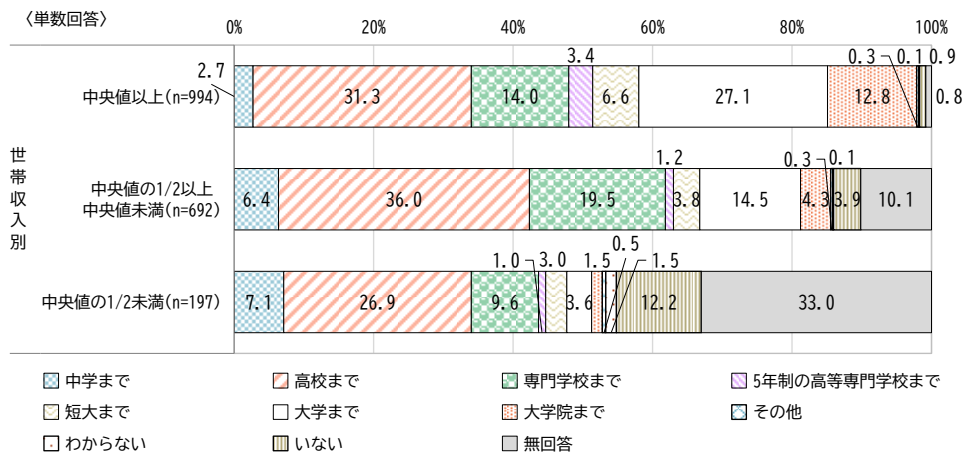
■親が卒業・修了した学校（保護者 問9）

【母親】



■親が卒業・修了した学校（保護者 問9）

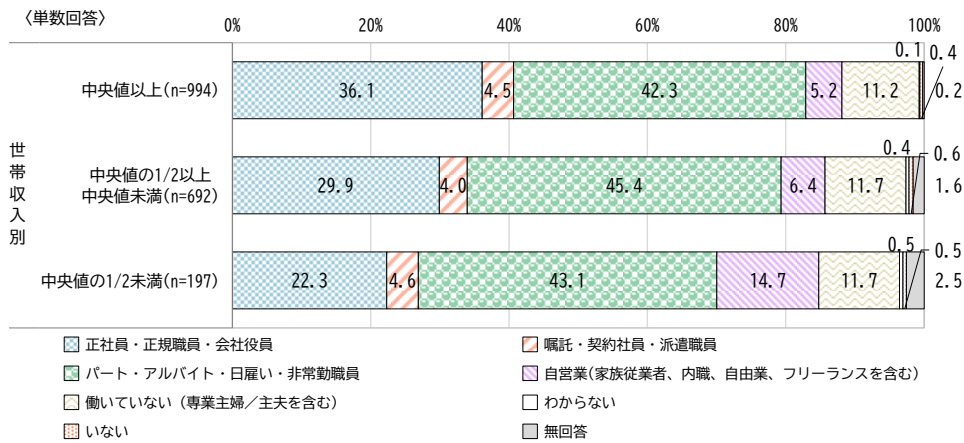
【父親】



○母親、父親ともに世帯収入が少なくなるにつれ、正社員・正規職員・会社役員の割合が低くなっています。

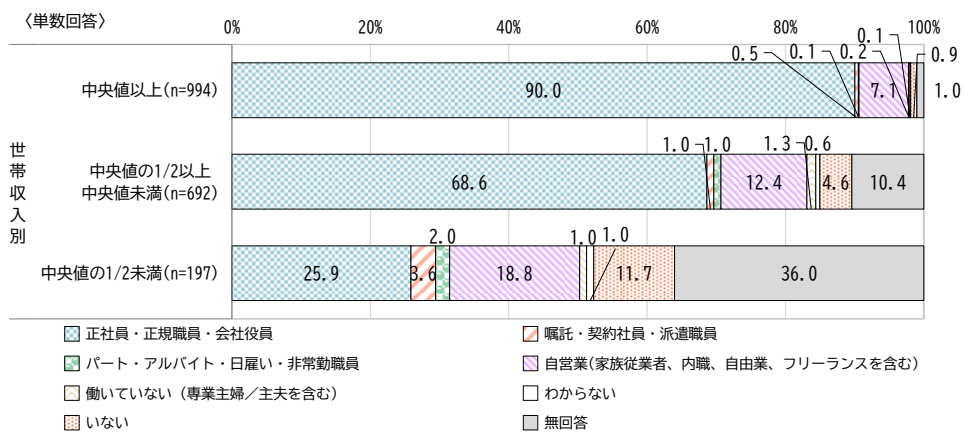
■親の就労状況（保護者 問10）

【母親】



■親の就労状況（保護者 問10）

【父親】



(2) 小学校入学前の教育・保育の状況

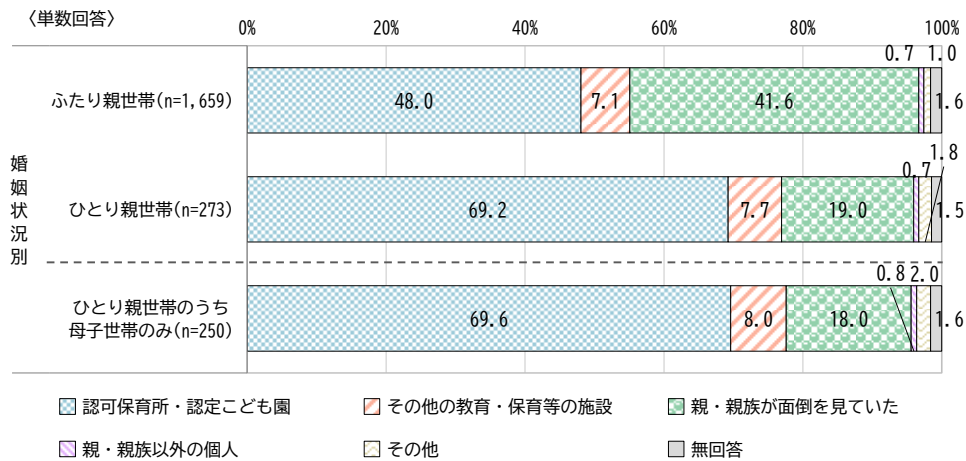
○0～2歳における教育・保育施設等の利用状況（「ふたり親世帯」：「ひとり親世帯」）

「認可保育園・認定こども園」（48.0%：69.2%）

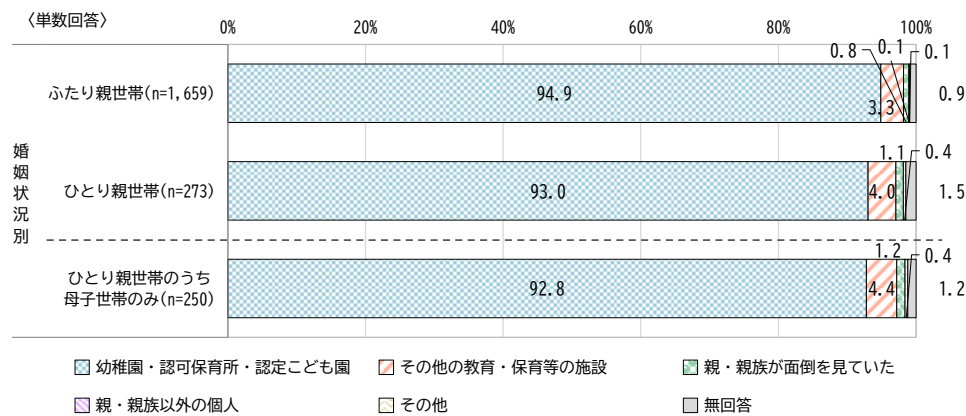
「親・親族が面倒を見ていた」（41.6%：19.0%）

○3～5歳では「幼稚園・認可保育園・認定こども園」の利用が94.9%となっています。

■0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等（保護者 問13）



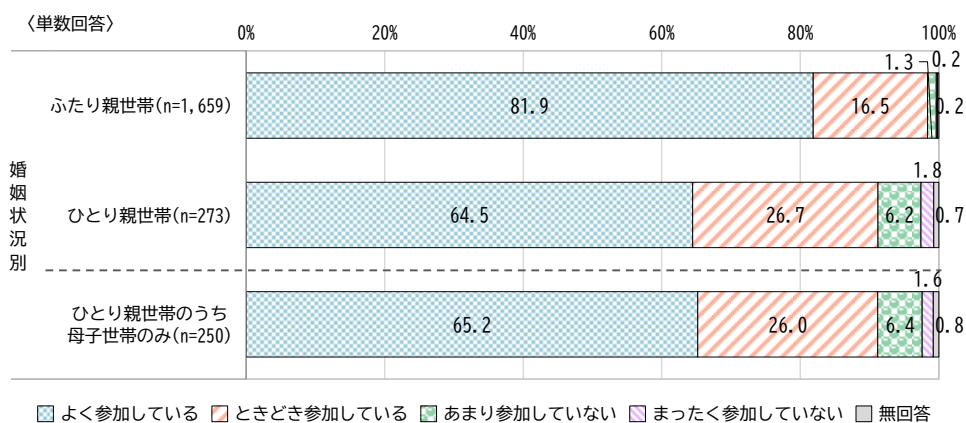
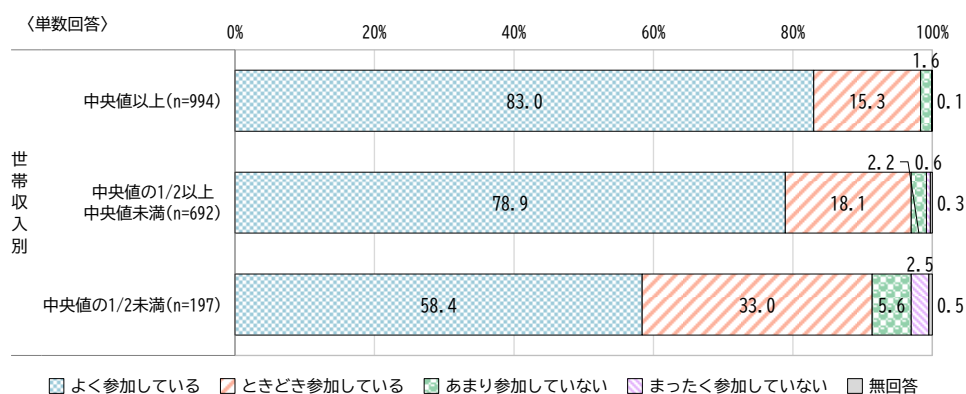
■3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等（保護者 問14）



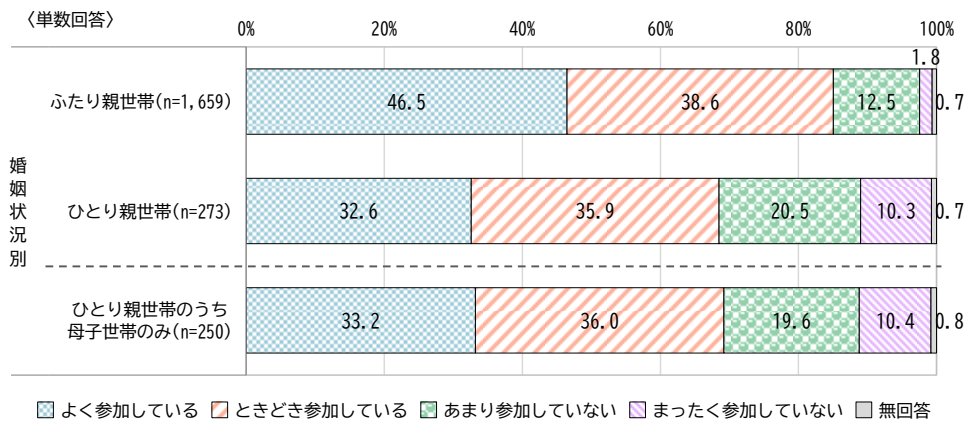
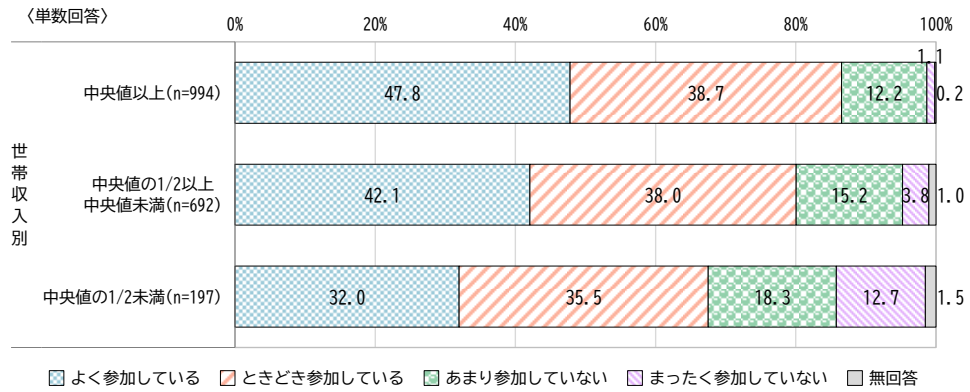
(3) 子どもとの関わり方について

- 授業参観や運動会等の学校行事への参加状況を世帯収入別にみると、「よく参加している」割合は、世帯収入が高いほど高くなっています。
- PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加状況についても、同様の傾向となっています。
- また、婚姻状況別にみると、「ひとり親世帯」では、学校行事やPTA活動、保護者会、ボランティアなどの活動に『参加していない』割合が高くなっています。

■授業参観や運動会等の学校行事への参加（保護者 問16a）



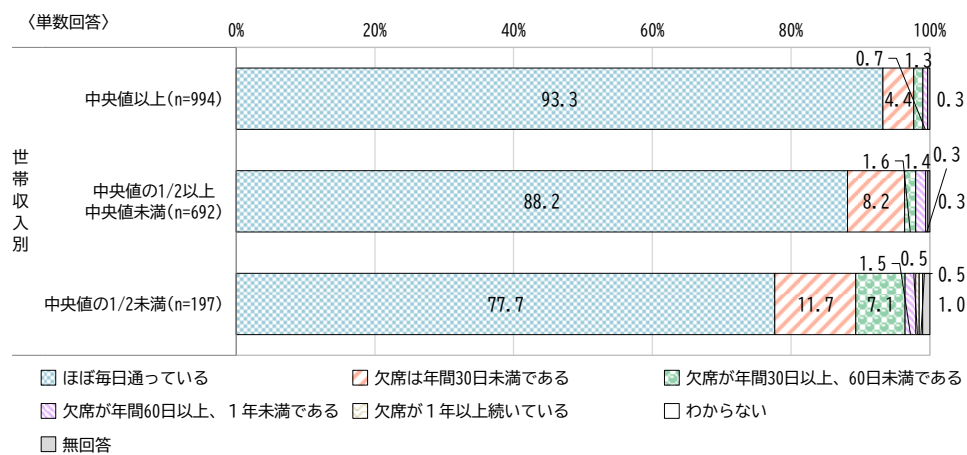
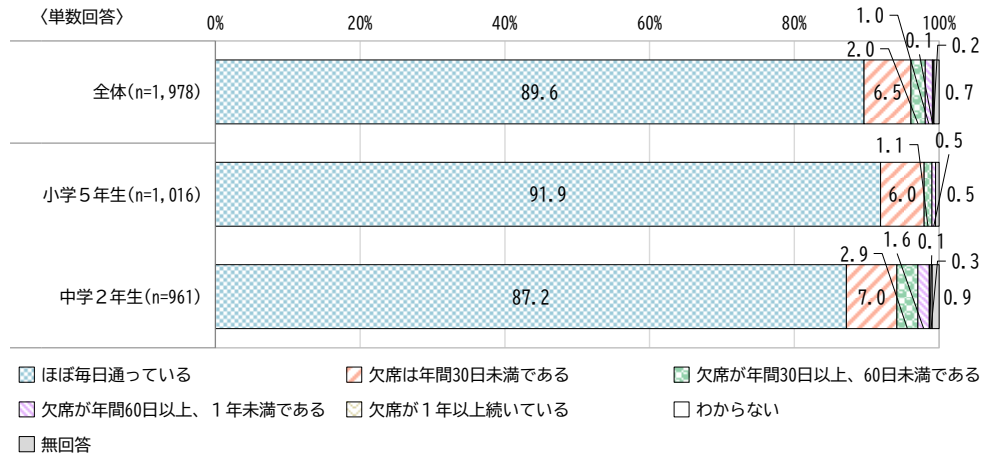
■ P T A活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加（保護者 問16b）



(4) 子どもの学校生活について

- 年間30日以上欠席している割合は、5%程度となっています。
- その割合は、世帯収入が少ないほど、高くなっています。

■子どもの通学状況（保護者 問17）

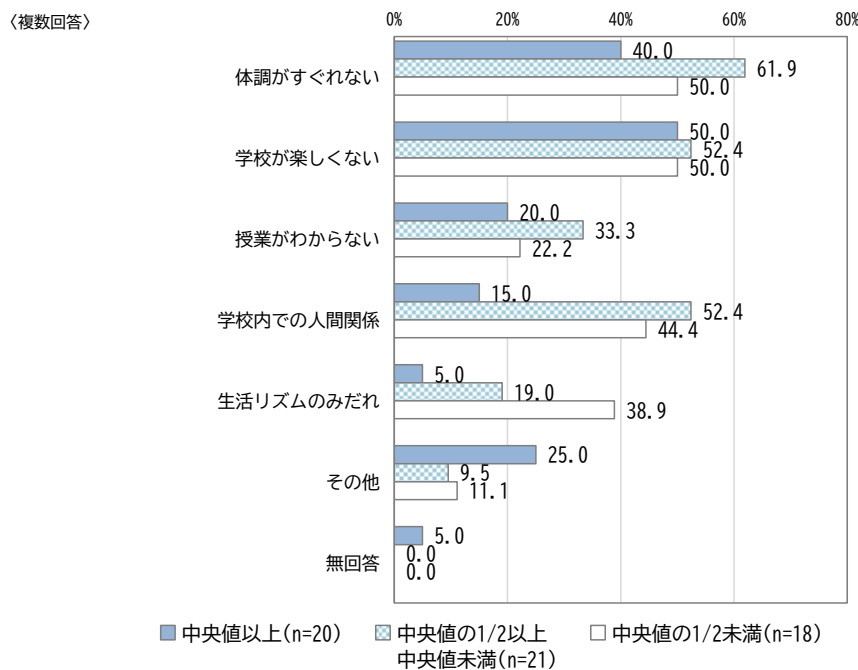
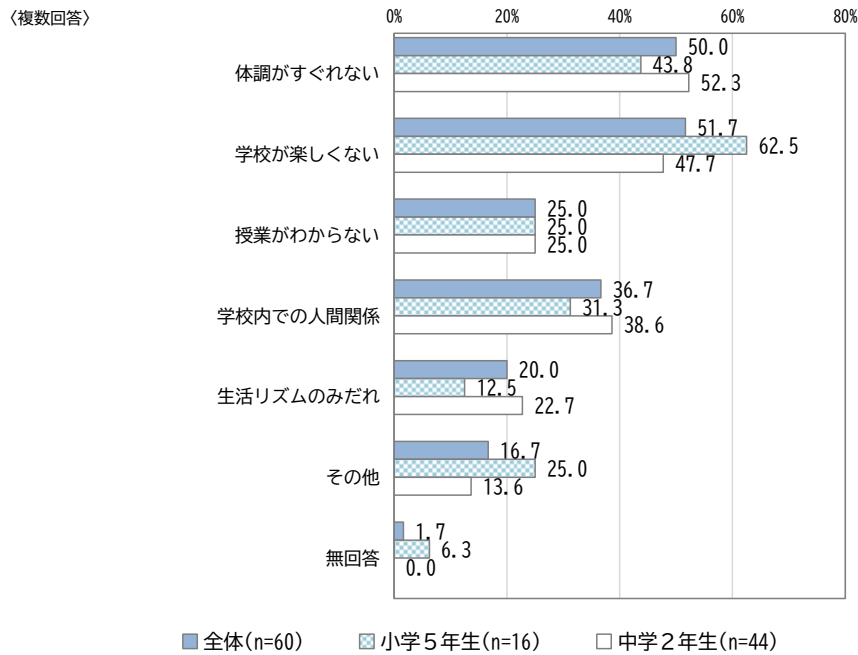


○『欠席が年間30日以上』と回答した方の欠席の主な理由については、全体では、「学校が楽しくない」が51.7%と最も高く、次いで、「体調がすぐれない」が50.0%、「学校内での人間関係」が36.7%となっています。

○世帯収入別にみると、「中央値の1/2未満」の世帯では、「生活リズムのみだれ」の割合が38.9%と他の世帯より高くなり、差も大きくなっています。

■欠席の主な理由（保護者 問18）

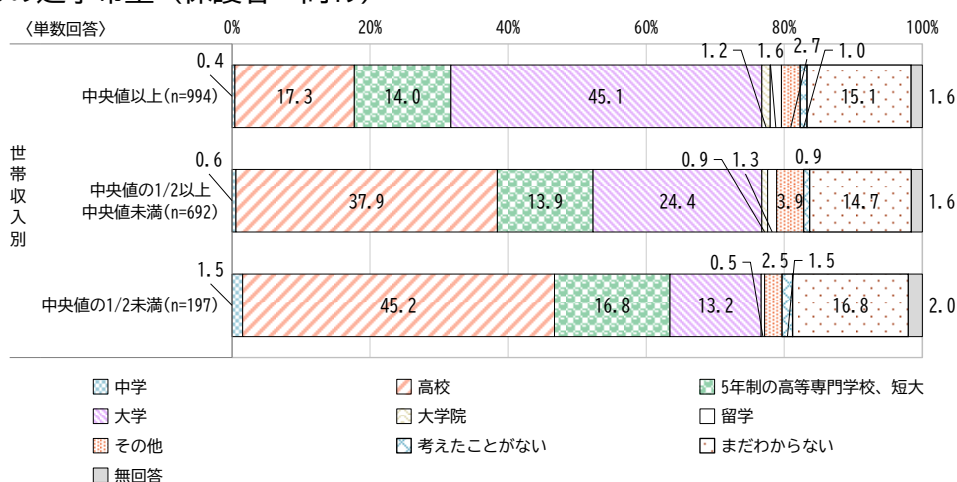
※問17で『欠席が年間30日以上』と回答した方のみ



(5) 子どもの進路希望について

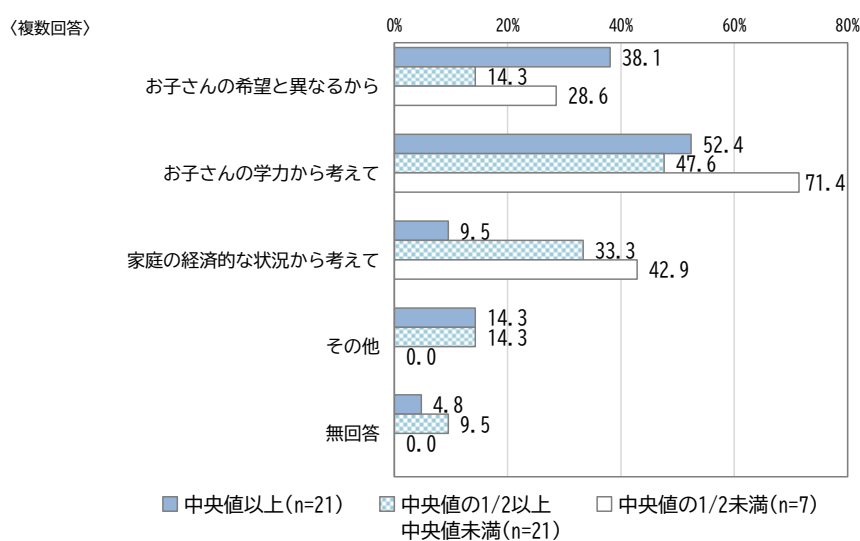
- 子どもの進路希望について世帯収入別にみると、「中央値以上」では「大学」の割合が45.1%、「中央値の1/2以上中央値未満」(37.9%)及び「中央値の1/2未満」(45.2%)では「高校」の割合が最も高くなっています。
- 子どもの進学について希望どおり進むと思わないと回答した方の理由としては、全体では、「お子さんの学力から考えて」が54.9%と最も高くなり、特に「中央値1/2未満」の世帯では71.4%と高くなっています。
- また、「家庭の経済的な状況から考えて」の割合が、「中央値1/2未満」の世帯では42.9%となり、他の世帯より高くなっています。

■子どもの進学希望（保護者 問19）



■子どもの進学希望が希望通り進むと思わない理由（保護者 問21）

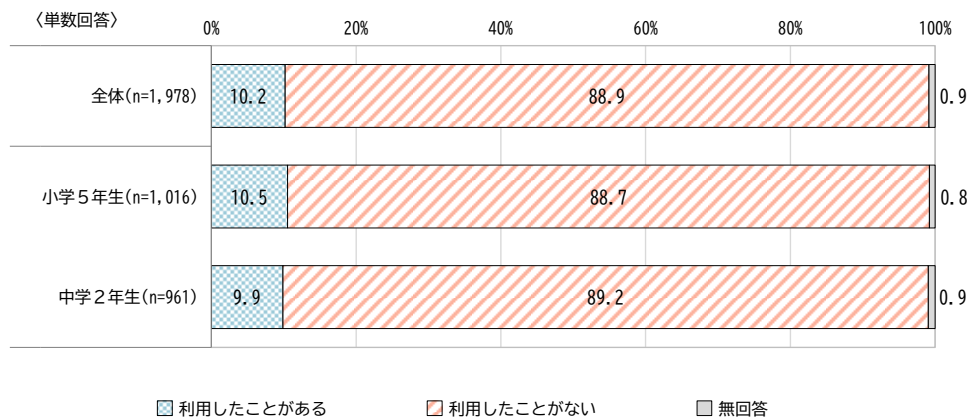
※問20子どもの進学について希望どおり進むと思わないと回答した方のみ



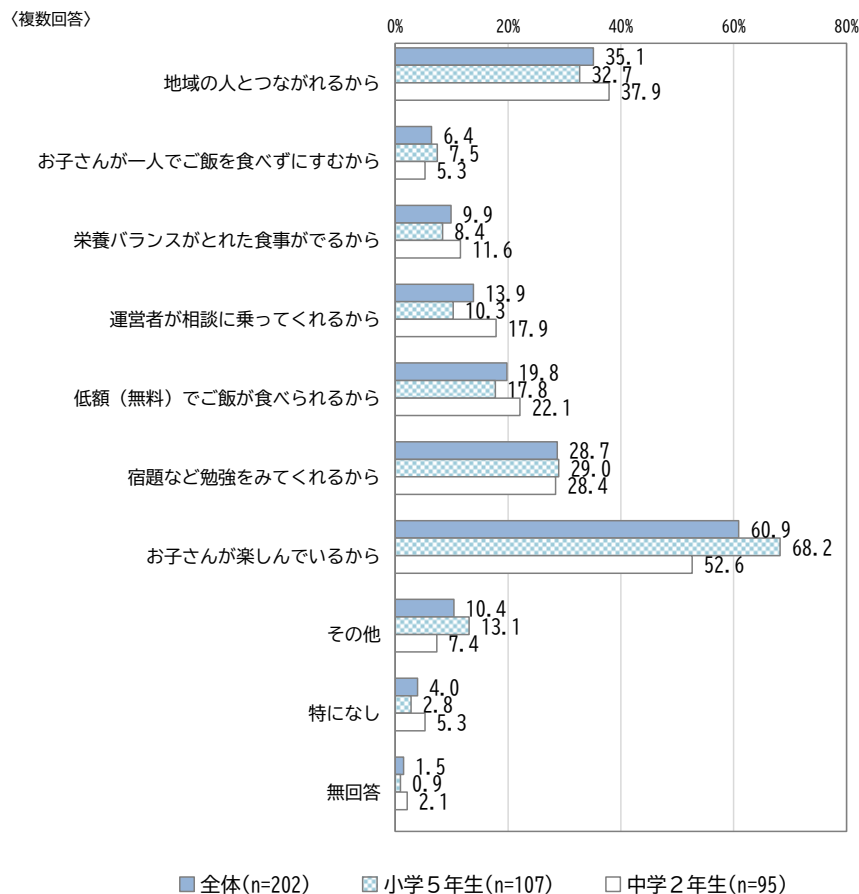
(6) 子どもの放課後等の居場所について

- 「子どもの居場所」を利用したことがある人は、約1割となっています。
- 「子どもの居場所」を利用することで良いと思うことは、「お子さんが楽しんでいるから」が約6割と最も高くなっています。
- 「子どもの居場所」を利用しない理由については、「どこにあるか知らないから」が65.8%と最も高くなっています。

■子どもは、「子どもの居場所」を利用したことがあるか（保護者 問27）

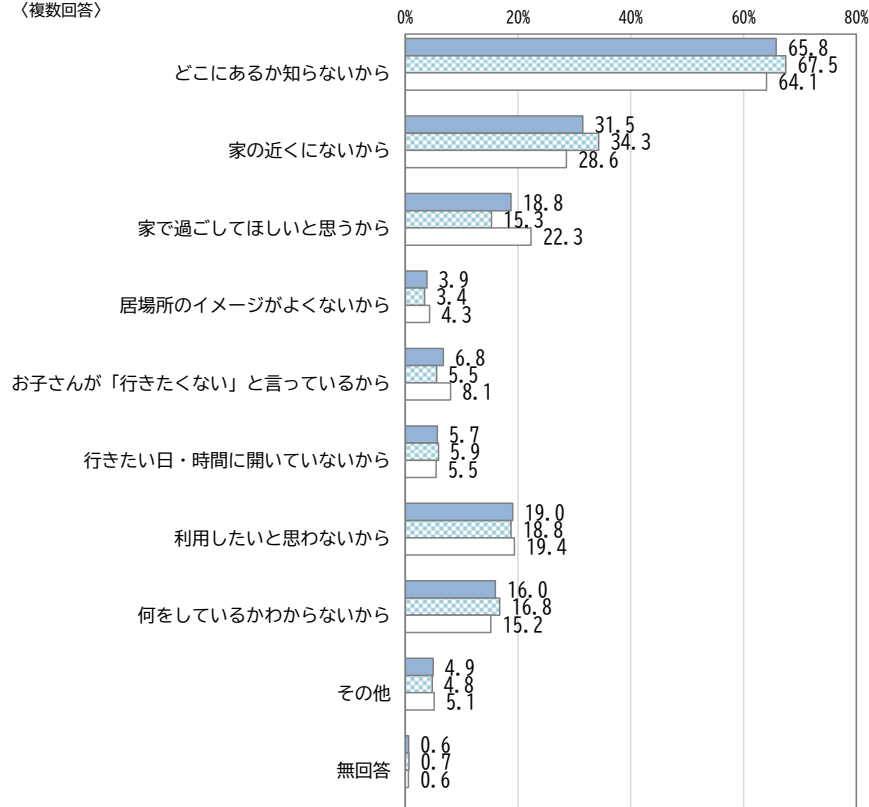


■子どもが「子どもの居場所」を利用することで良いと思うこと（保護者 問28）



■子どもが「子どもの居場所」を利用しない理由（保護者 問29）

〈複数回答〉

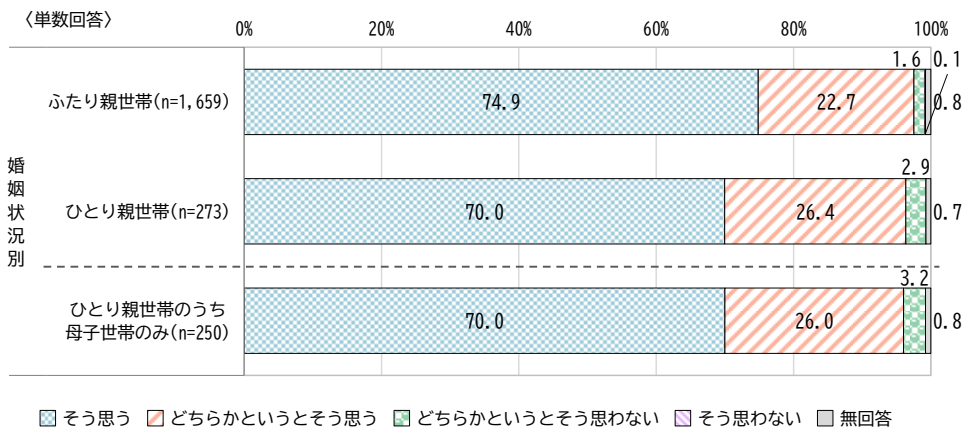
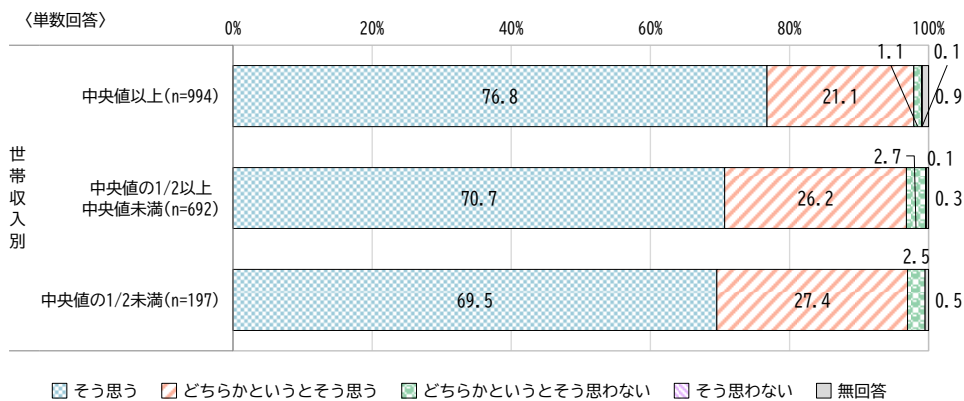
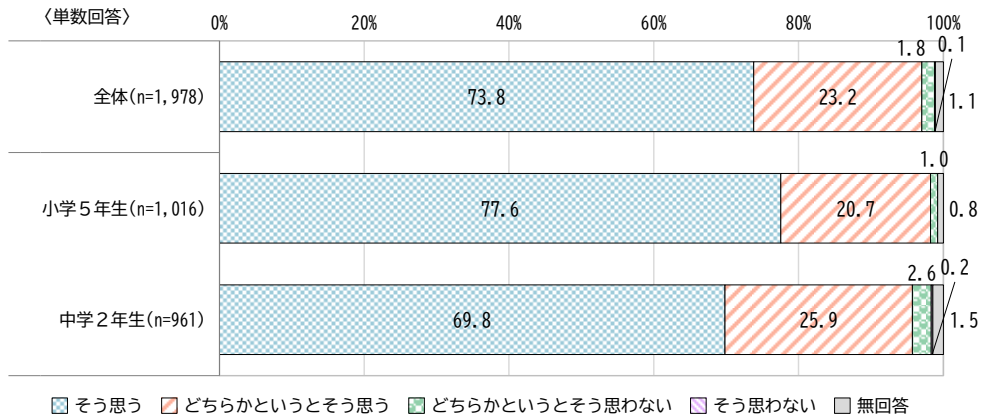


■全体(n=1,759) ■小学5年生(n=901) □中学2年生(n=857)

○子どもは自分の家を居心地がいいと感じていると思うかについては、「そう思う」が73.8%と最も高く、次いで、「どちらかというと思う」が23.2%、「どちらかというと思わない」が1.8%となっています。

○世帯収入別、婚姻状況別に大きな差はみられないが、「そう思う」割合が「中央値の1/2以上中央値未満」「中央値の1/2未満」世帯及び「ひとり親世帯」において若干低くなっている。

■子どもは自分の家を居心地がいいと感じていると思うか（保護者 問30）

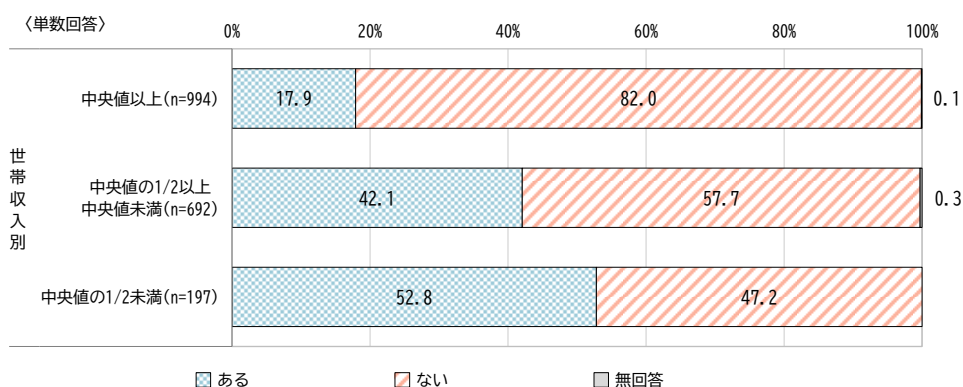


(7) 経済状況について

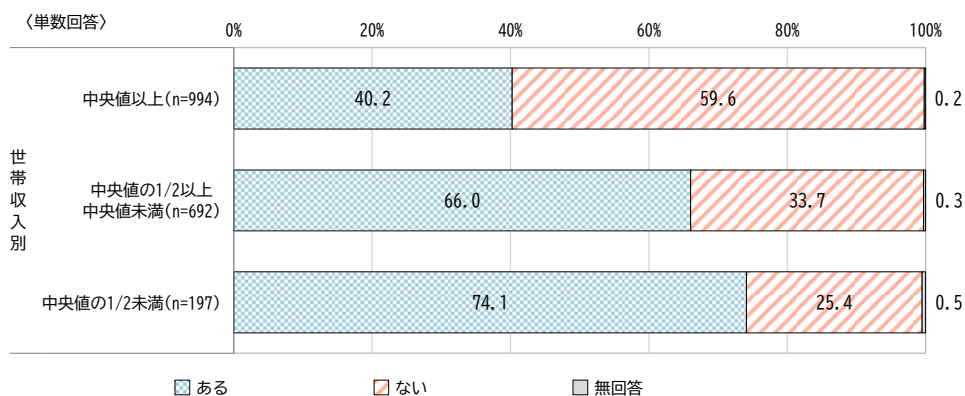
- 世帯での経済的理由による経験の有無（中央値以上：中央値の1/2以上中央値未満：中央値の1/2未満）
- ・子どもの学習意欲にこたえられなかった経験があった割合（17.9%：42.1%：52.8%）
 - ・子どもの進路に不安をいだいた経験があった割合（40.2%：66.0%：74.1%）
 - ・家族が必要とする食料が買えなかったことがよくあった割合（0.1%：3.6%：9.1%）
 - ・家族が必要とする衣服が買えないことがよくあった割合（0.6%：5.1%：13.7%）
 - ・過去1年の間に、料金未払になった経験があった割合は、「中央値の1/2未満」の世帯において1～2割程度となっています。
- 現在の暮らしの状況については、「苦しい」「大変苦しい」と回答した世帯の割合は、「中央値以上」が17.0%、「中央値の1/2以上中央値未満」が44.4%、「中央値の1/2未満」が67.6%となっています。

①世帯での経済的理由による経験の有無

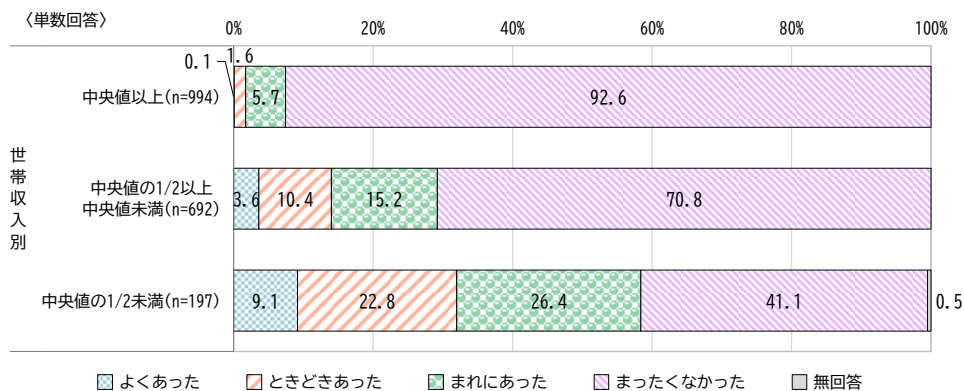
■子どもの学習意欲にこたえられなかった経験の有無（保護者 問31）



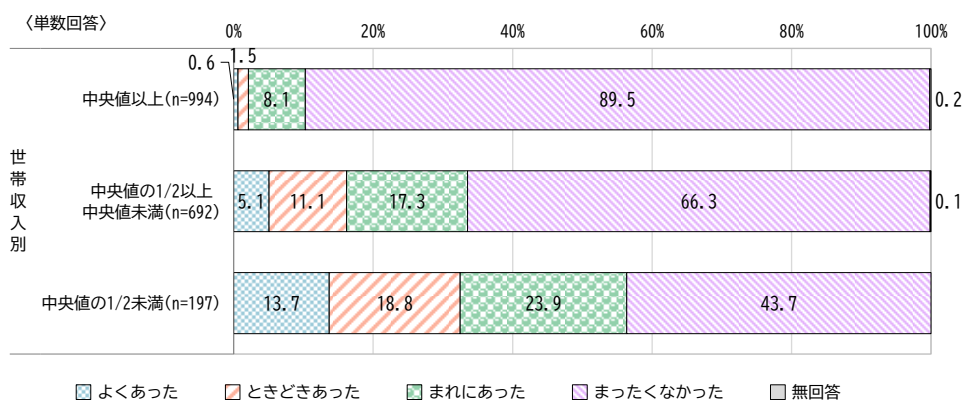
■子どもの進路に不安をいだいた経験の有無（保護者 問32）



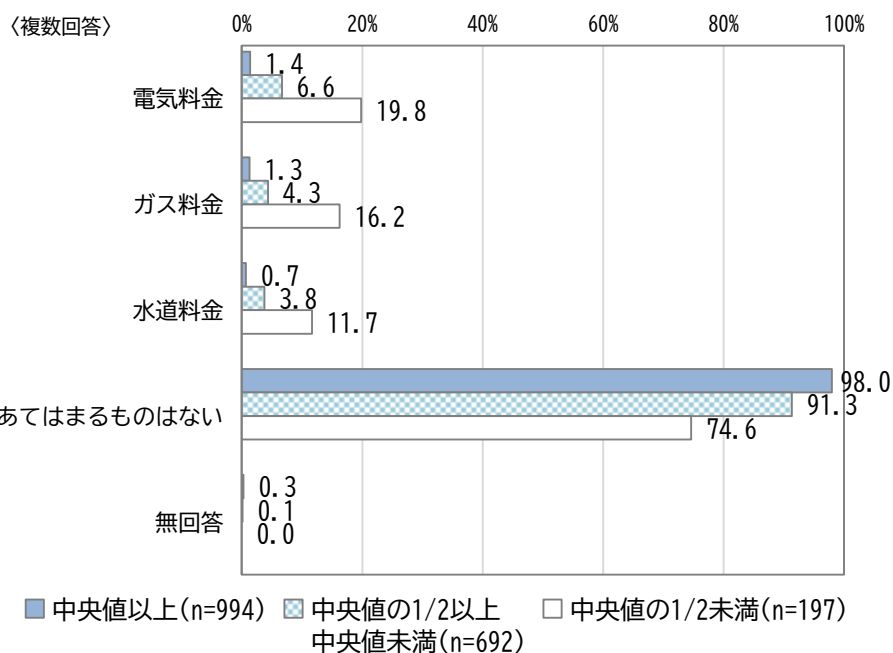
■過去1年の間に、家族が必要とする食料が買えなかった経験の有無（保護者 問33）



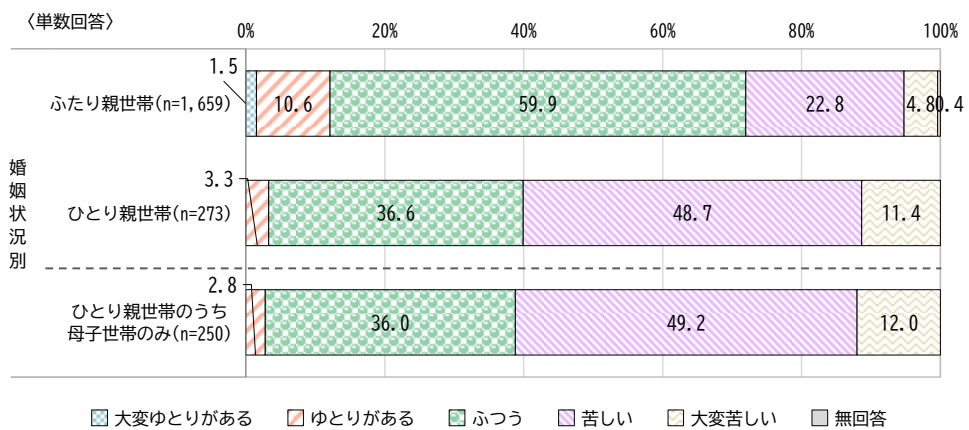
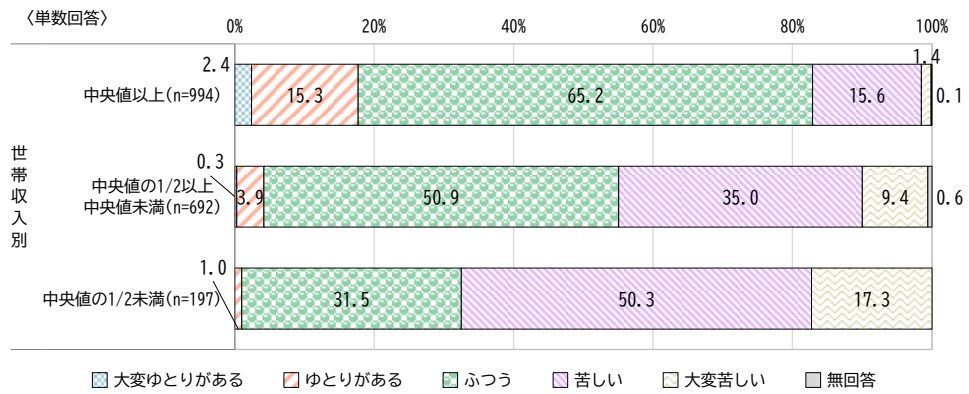
■過去1年の間に、家族が必要とする衣服が買えなかった経験の有無（保護者 問34）



■過去1年の間に、料金未払になった経験の有無（保護者 問34）



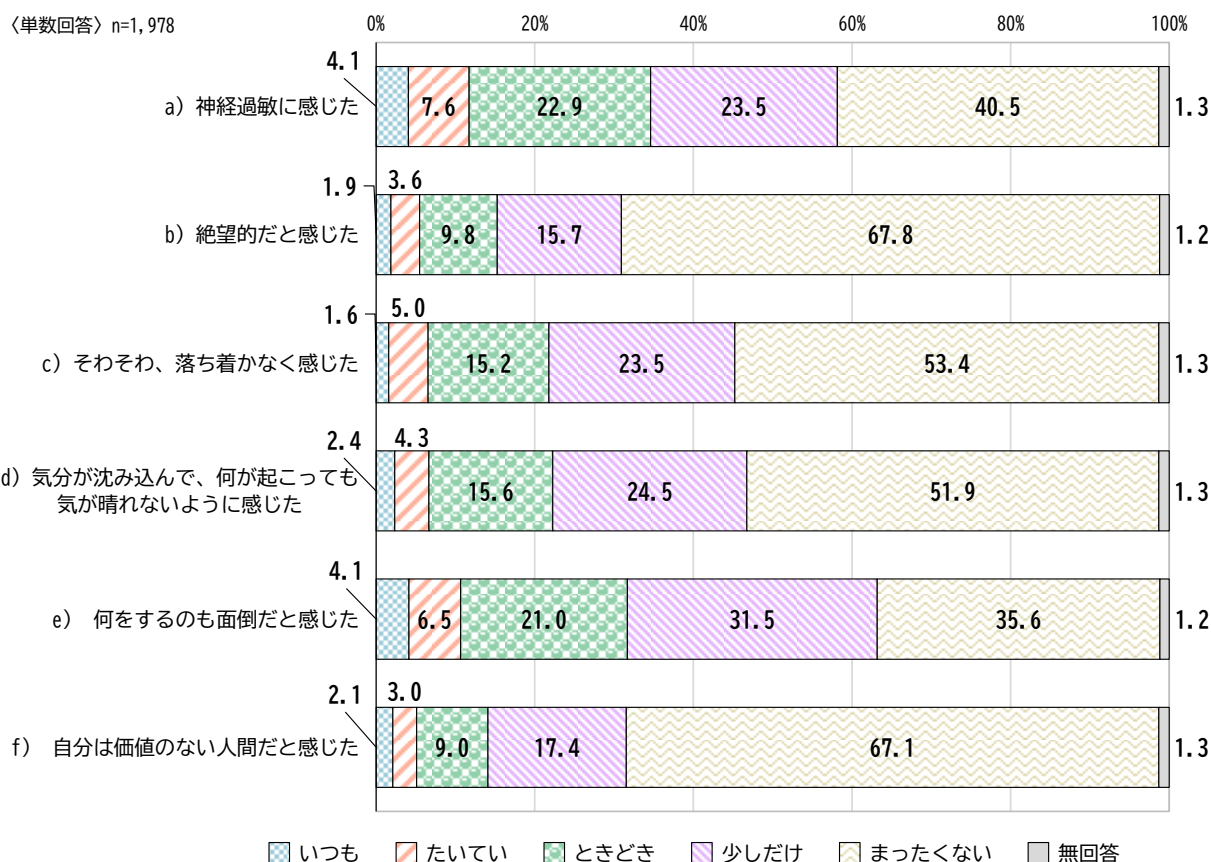
■現在の暮らしの状況をどのように感じているか（保護者 問37）



(8) ふだんの生活と必要な支援について

- K6[※]判定による保護者の心理的な状態については、『心に深刻な問題が発生している可能性が高い状態』とされている「13点以上」の割合は全体では8.3%となっています。
- 世帯収入別にみると、K6のスコアが「13点以上」の割合は、「中央値以上」の世帯では4.2%、「中央値の2分の1以上中央値未満」の世帯では10.0%、「中央値の2分の1未満」の世帯では21.3%となっています。
- 婚姻状況別に見ると、K6のスコアが「13点以上」の割合は、「ふたり親世帯」では6.8%、「ひとり親世帯」全体では16.8%、「母子世帯」のみでは17.2%となっています。
- (全体として)最近の生活の満足度を「0(まったく満足していない)」から「10(十分に満足している)」の数字で回答してもらった結果、「中央値以上」の世帯では8点、「中央値の2分の1以上中央値未満」及び「中央値の2分の1未満」の世帯では5点がそれぞれ最も多くなっています。
- 身近にあると良いと思うことについては、全体では「支援制度など必要な情報を届けてくれること」のが55.0%と最も高くなっており、世帯収入別にみると、収入が少ない世帯ほどその割合は高くなっています。
- 相談しやすい窓口については、全体では、「匿名性がある」が43.7%と最も高く、次いで、「いつでも相談できる」が37.4%、「同じ人に相談できる」が37.1%となっています。

■a)～f)の質問について、この1か月間の気持ち(保護者 問39)



<K6*判定>

問 39 の回答結果から保護者の心理的な状態について分析しました。

※K6 とは

米国の Kessler らによって、うつ病・不安障がいなどの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発された指標。

「神経過敏に感じた」「絶望的だと感じた」「そろそろ落ち着かなく感じた」「気分が沈み、気が晴れないように感じた」「何をするのも面倒だと感じた」「自分は価値のない人間だと感じた」の6項目ごとに「いつも」4点、「たいてい」3点、「ときどき」2点、「少しだけ」1点、「まったくない」0点を与え、合計点を算出したもの。

合計点数が高くなるほど、抑うつ状態が強いことを示している

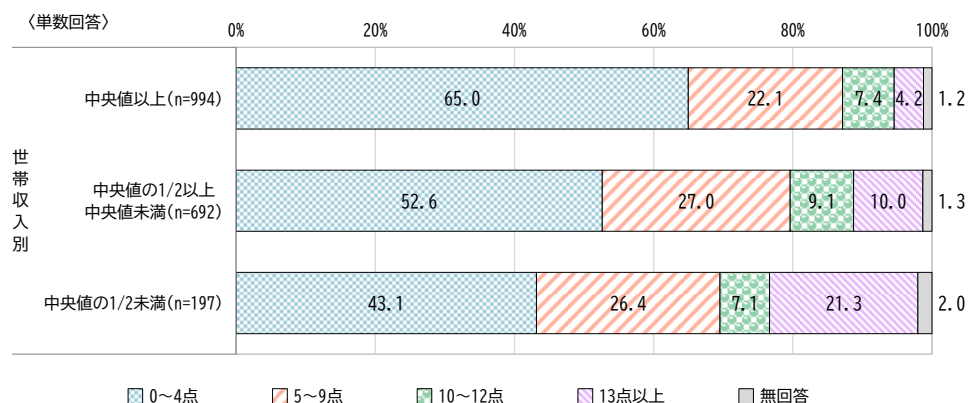
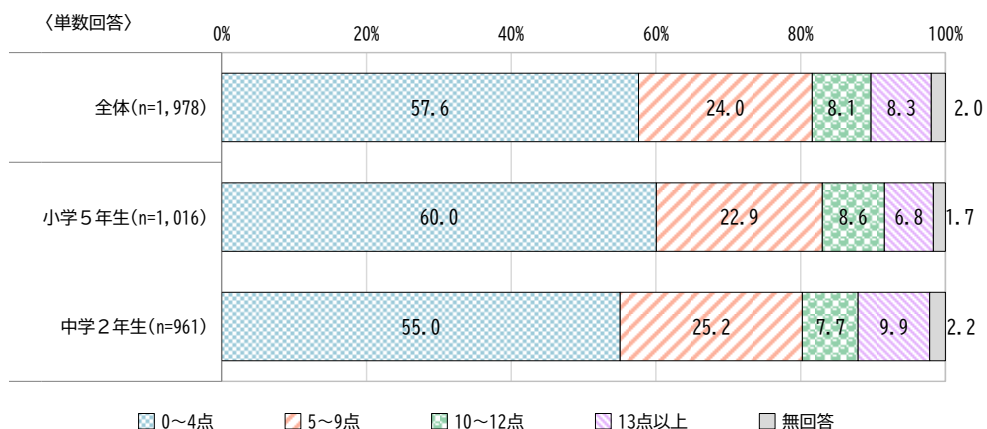
出典：厚生労働省

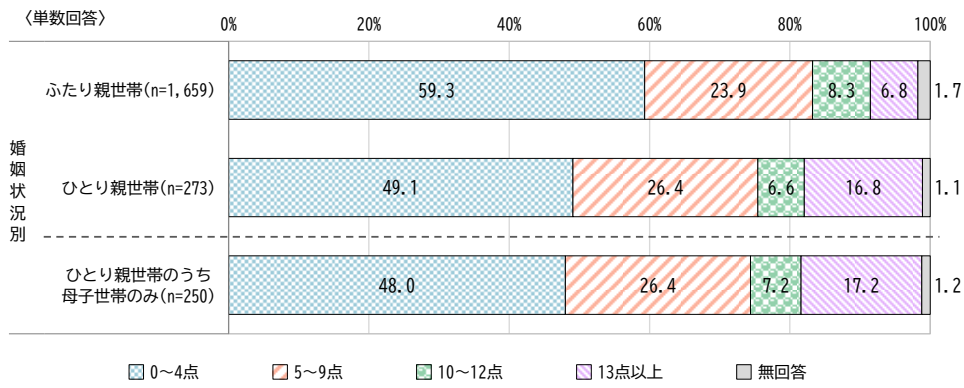
◆この6つの調査項目の結果を足し合わせて、K6 のスコアを算出しました (0~24 点)。

0~4 点・・・『問題なし』

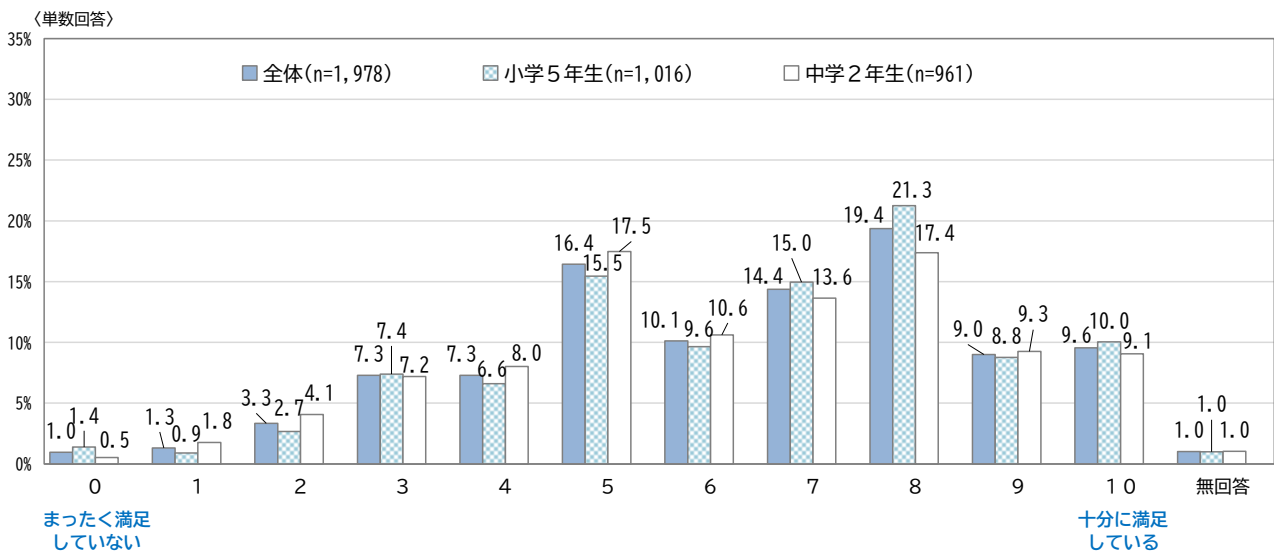
5~12 点・・・『心に何らかの負担を抱えている状態』

13 点以上・・・『心に深刻な問題が発生している可能性が高い状態』

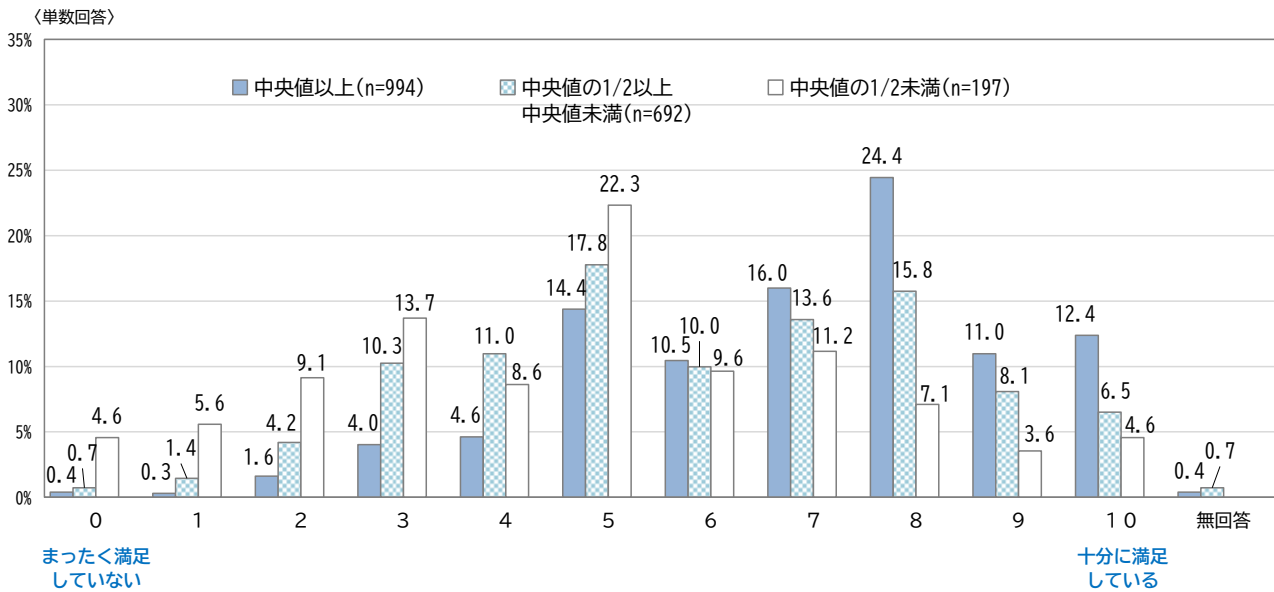




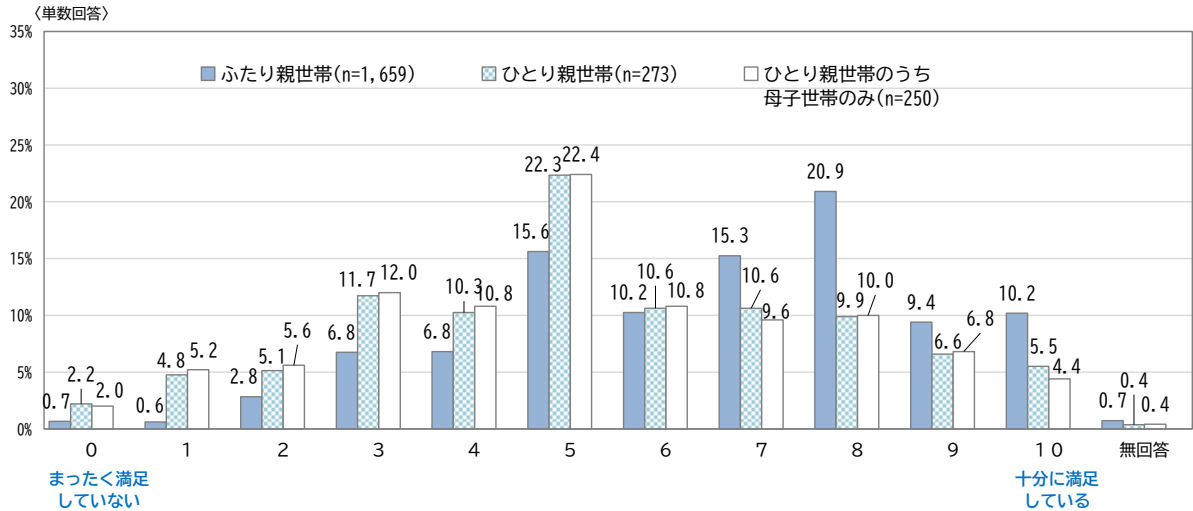
■ (全体として) 最近の生活の満足度 (保護者 問40)



■ 世帯収入別

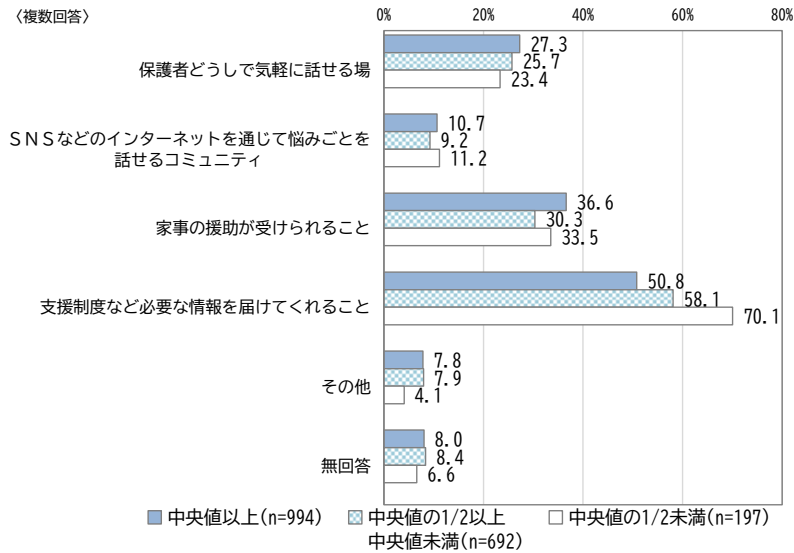


■婚姻状況別

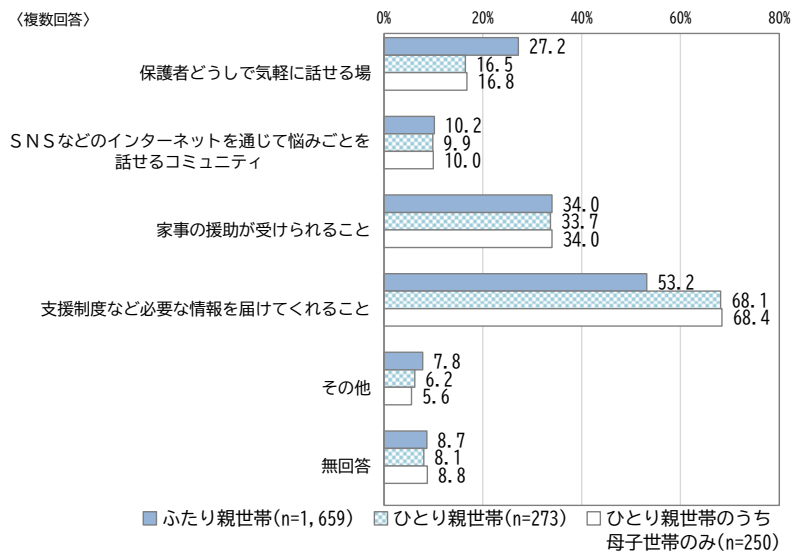


■身近にあると良いと思うこと (保護者 問42)

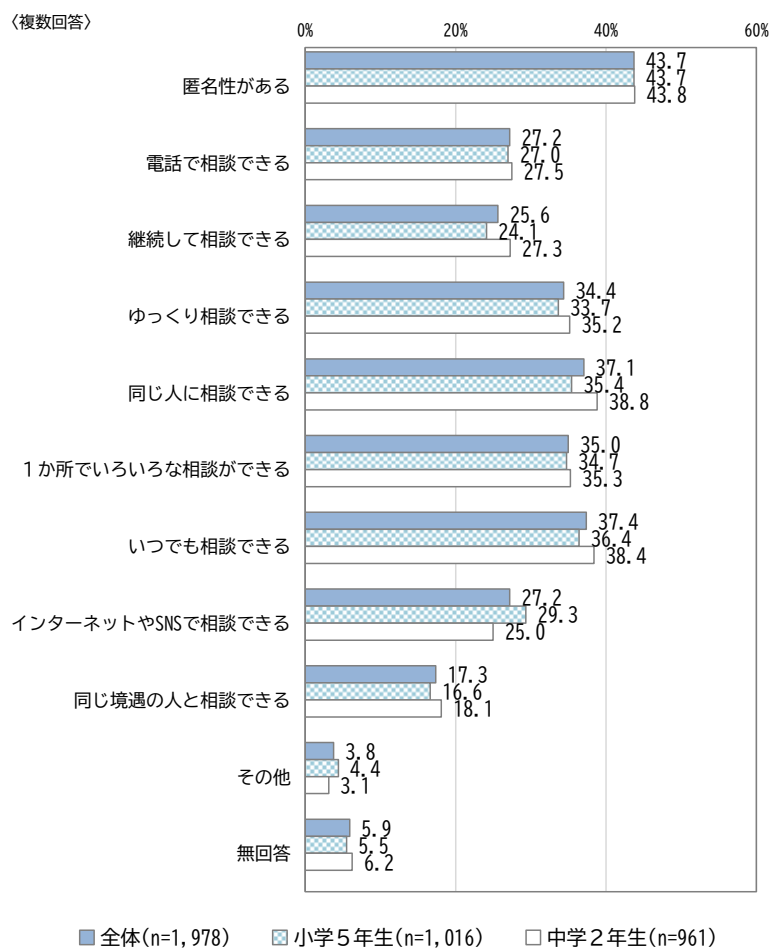
■世帯収入別



■婚姻状況別



■市の相談窓口がどのような場所（相手）であれば相談しやすい（保護者 問44）



■毎日の生活で感じていることや、子育てに対する不安や必要な支援などを自由に記入してください。(保護者 問45)

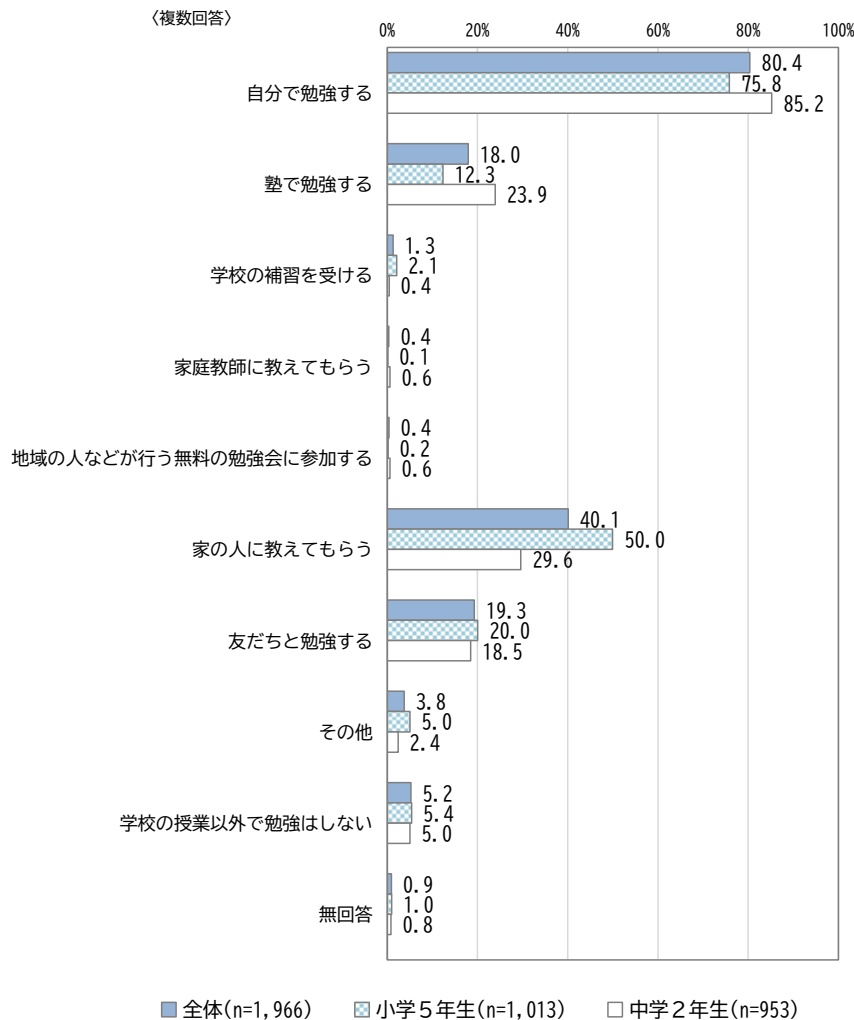
カテゴリ	件数
教育費に関すること	100
学校に関すること	84
教育費以外の経済的支援	68
医療費に関すること	56
子どもの居場所、遊び場、交流の場	52
相談支援体制	42
ひとり親への支援	33
アンケート、情報提供体制	25
保護者の就労に関すること	18
子どもの生活状況（生活習慣、夜更かし、スマホ）	16
進学・学力に関すること	11
こどもが安心・安全に暮らせる社会・環境づくり	10
その他	63
回答者数	578

4. 主な回答結果（小・中学生調査調査）

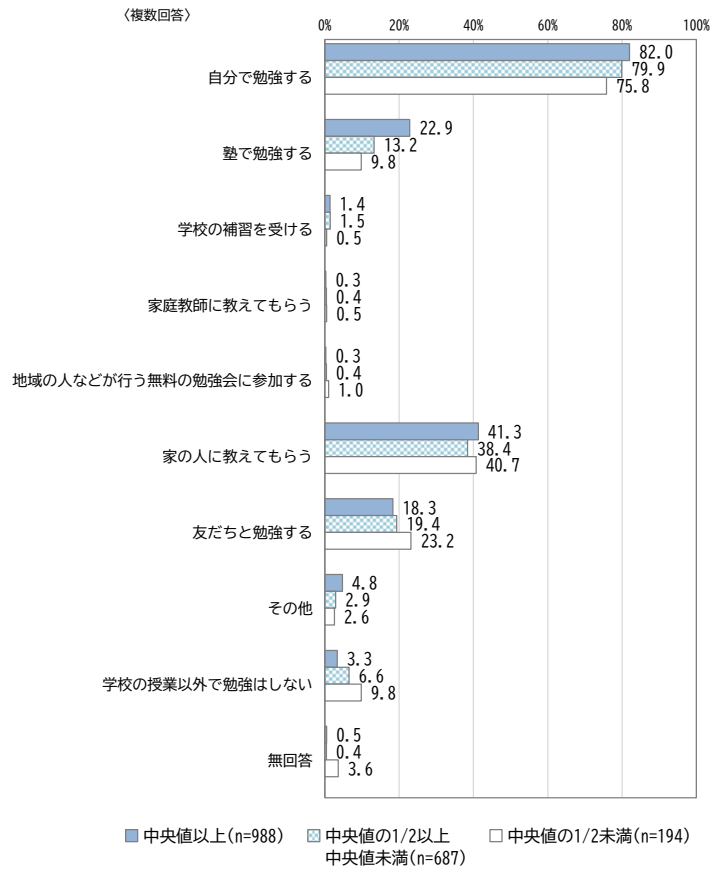
（1）学校生活について

- 全体では、「自分で勉強する」が80.4%と最も高く、次いで、「家の人に教えてもらう」が40.1%、「友だちと勉強する」が19.3%となっています。
- 世帯収入別にみると、「中央値の1/2未満」の世帯では「自分で勉強する」、「塾で勉強する」の割合が低くなっています。
- 婚姻状況別にみると、「中央値の1/2未満」の世帯では「自分で勉強する」、「塾で勉強する」の割合が低くなっています。

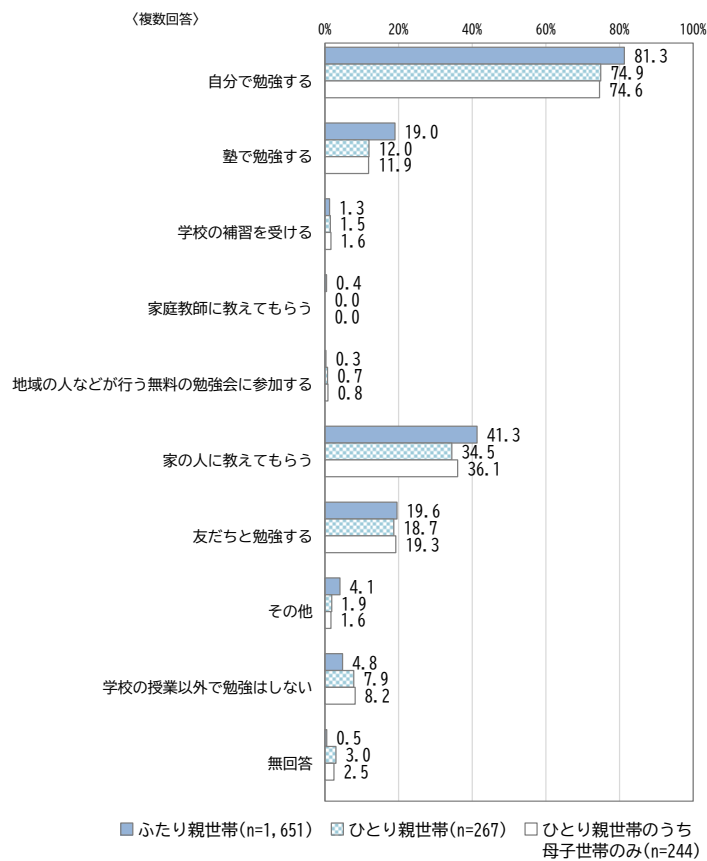
■ふだん学校の授業以外での勉強（小・中学生 問2）



■世帯収入別



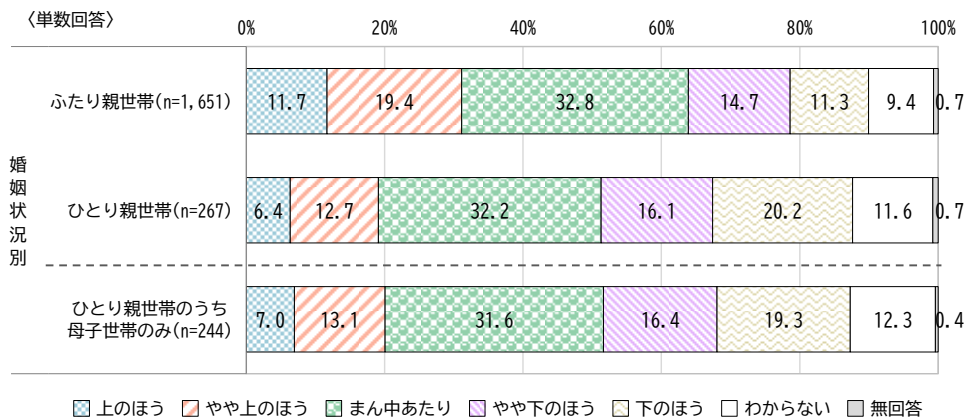
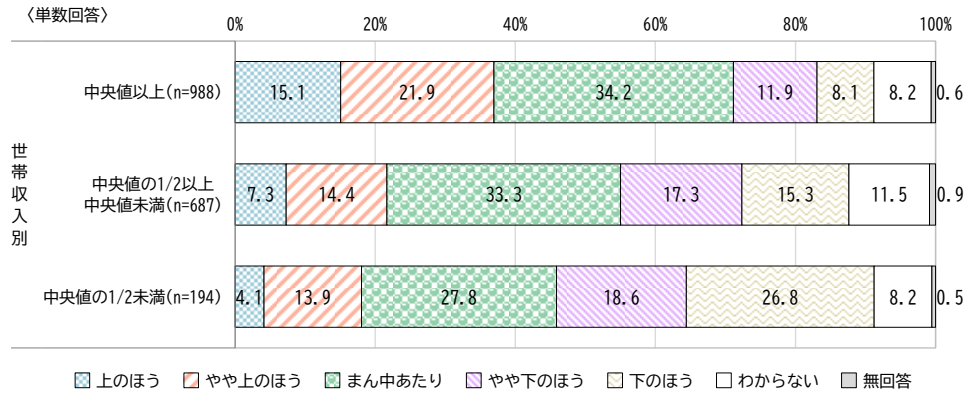
■婚姻状況別



○自分の成績について世帯収入別にみると、クラスの中で「やや下のほう」及び「下のほう」と回答した割合が「中央値の1/2未満」の世帯で高くなっています。

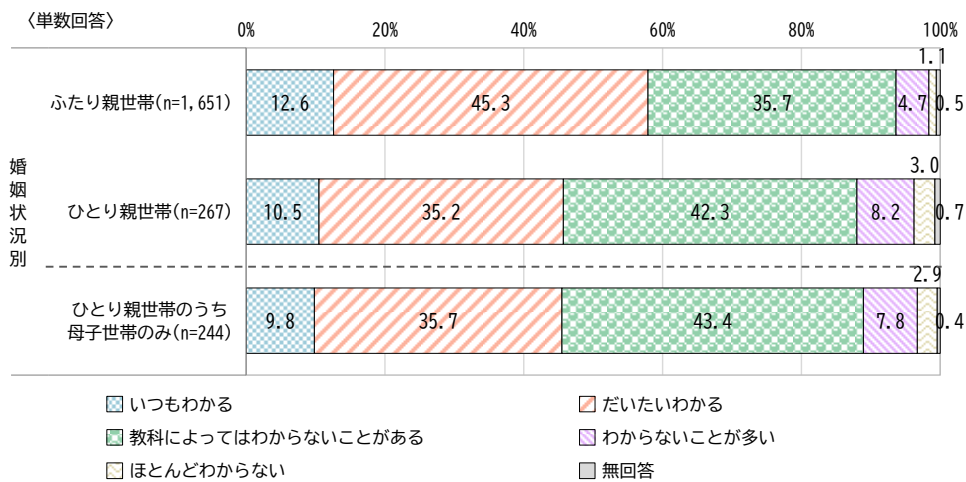
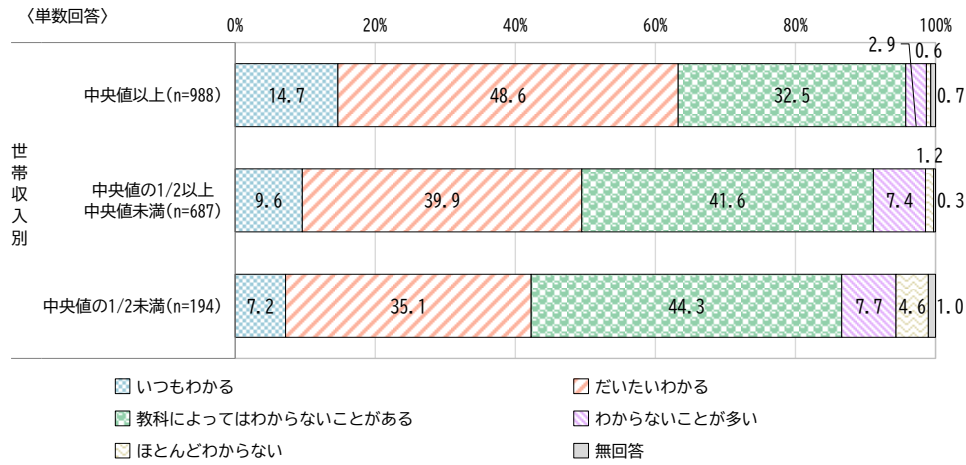
○同じく、婚姻状況別にみると、クラスの中で「やや下のほう」及び「下のほう」と回答した割合が「ひとり親世帯」で高くなっています。

■成績は、クラスの中でどのくらいだと思うか（小・中学生 問4）



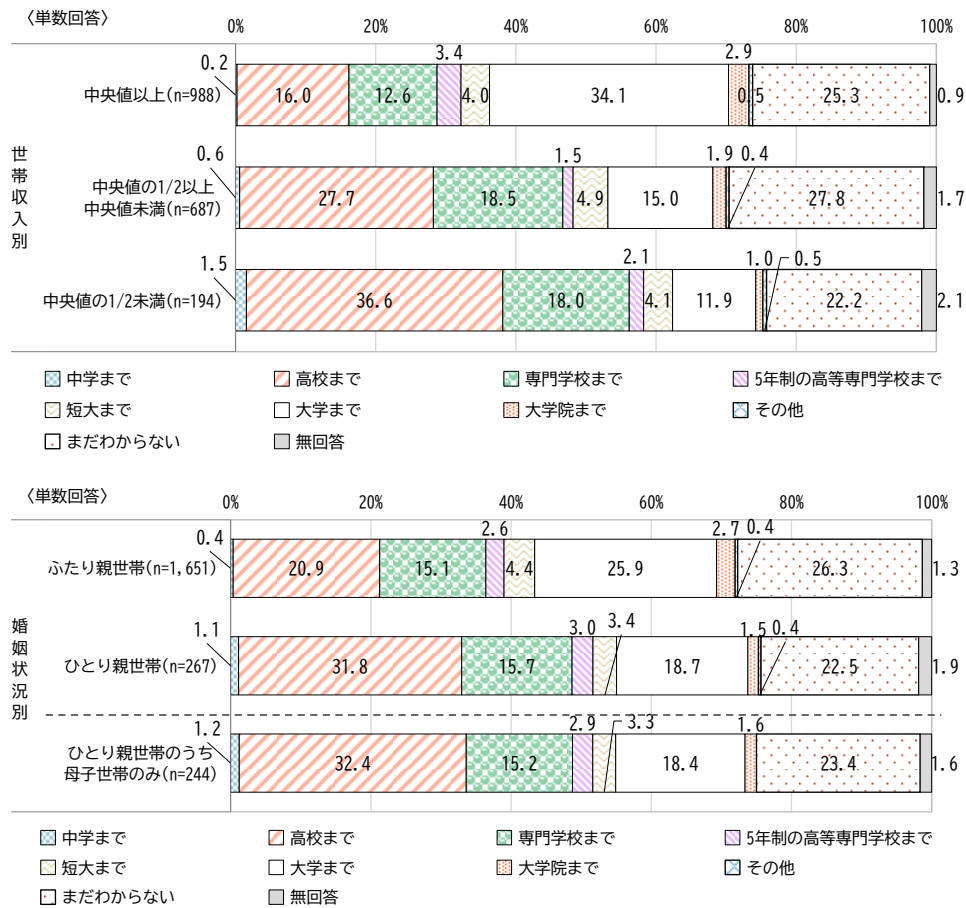
○学校の授業について世帯収入別にみると、「教科によってはわからないことがある」及び「わからないことが多い」と回答した割合は収入が少ないほど高くなっています。
 ○同じく、「教科によってはわからないことがある」及び「わからないことが多い」と回答した割合は「ひとり親世帯」高くなっています。

■学校の授業がわからないことがあるか（小・中学生 問5）



○将来の進路希望について世帯収入別にみると、「中央値以上」では「大学まで」の割合が34.1%、「中央値の1/2以上中央値未満」(27.7%)及び「中央値の1/2未満」(36.6%)では「高校まで」の割合が最も高くなっています。

■将来の進路を希望 (小・中学生 問7)

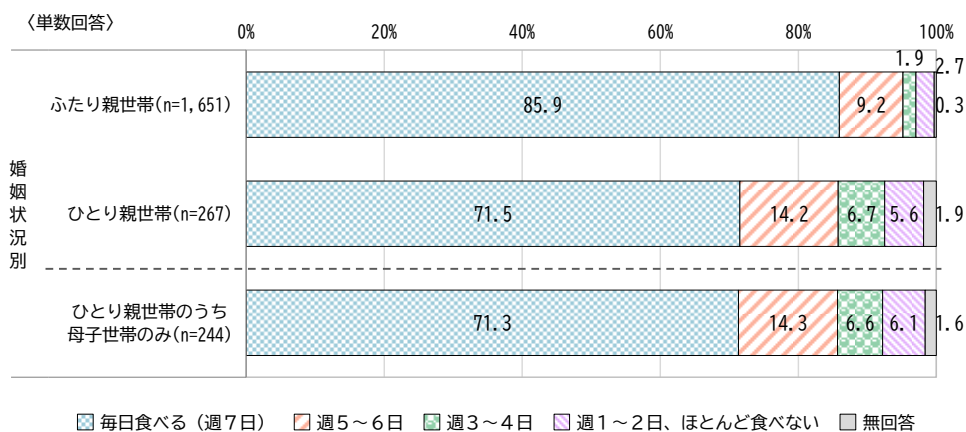
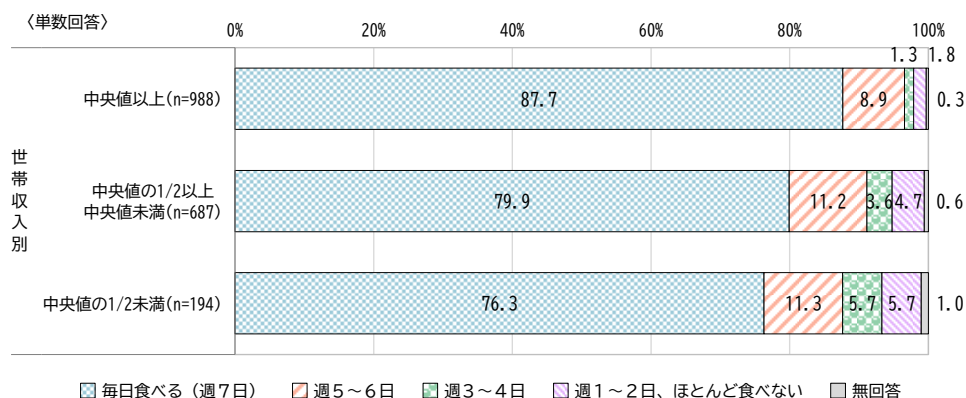
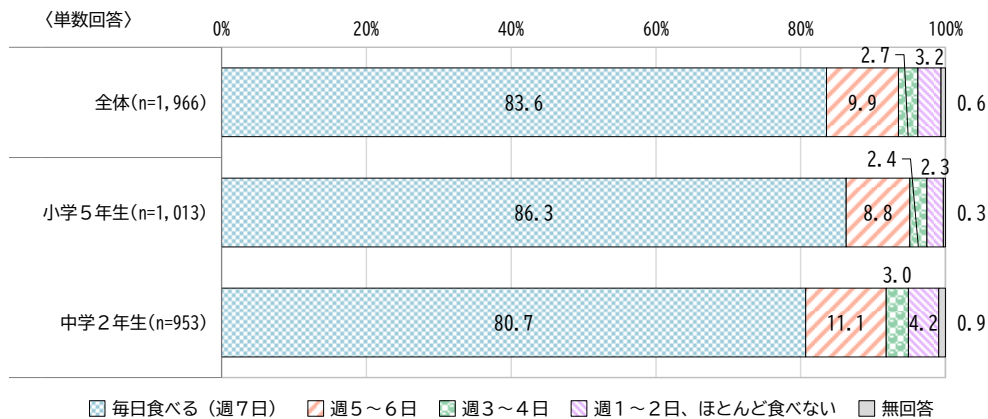


(2) ふだんの生活について

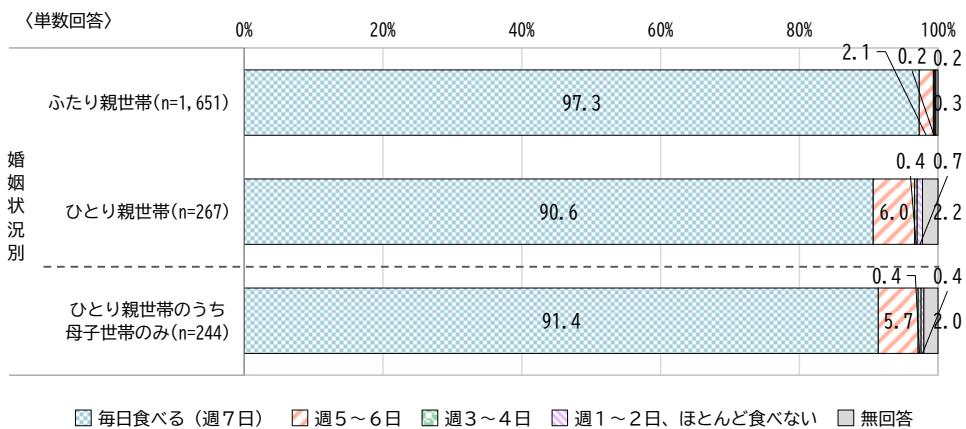
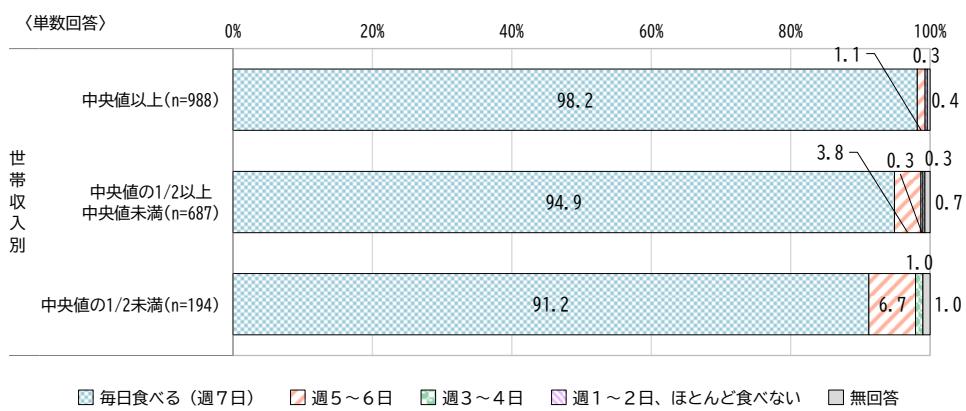
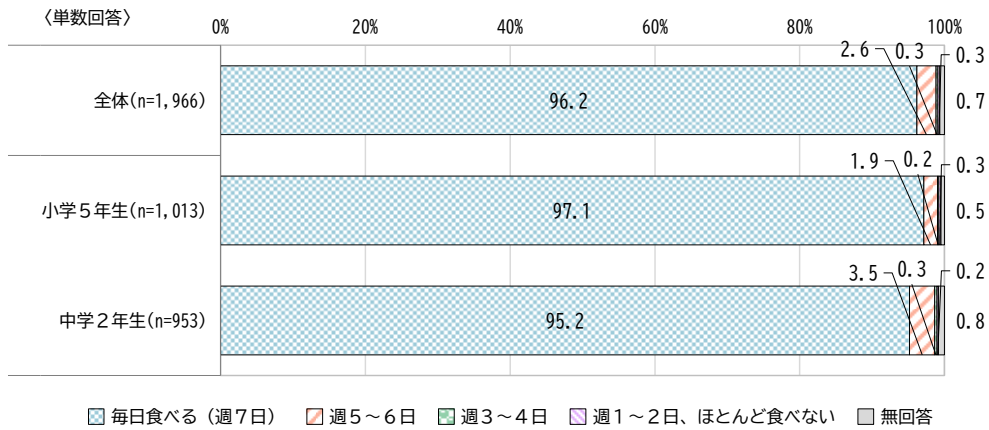
○朝食を「毎日食べる(週7日)」割合を世帯収入別にみると、「中央値以上」が87.7%、「中央値の1/2以上中央値未満」が79.9%、「中央値の1/2未満」が76.3%なっています。また、「ひとり親世帯」では71.5%とさらに低くなっています。

■ 1週間の食事の摂取状況(小・中学生 問14)

a) 朝食



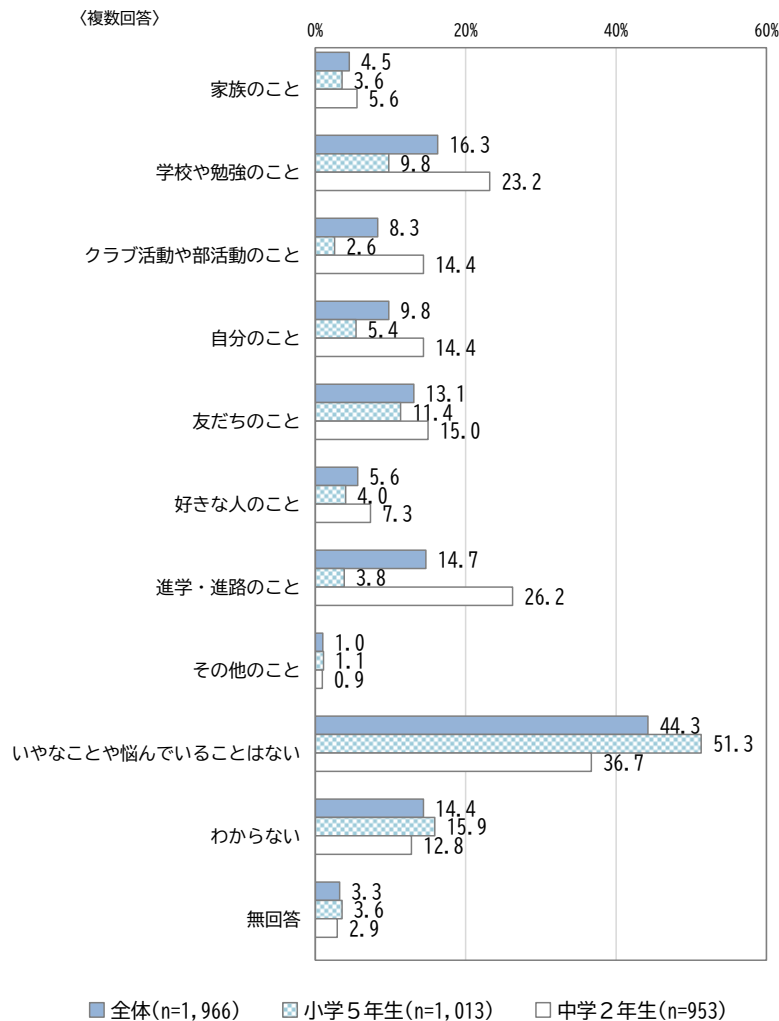
b) 夕食



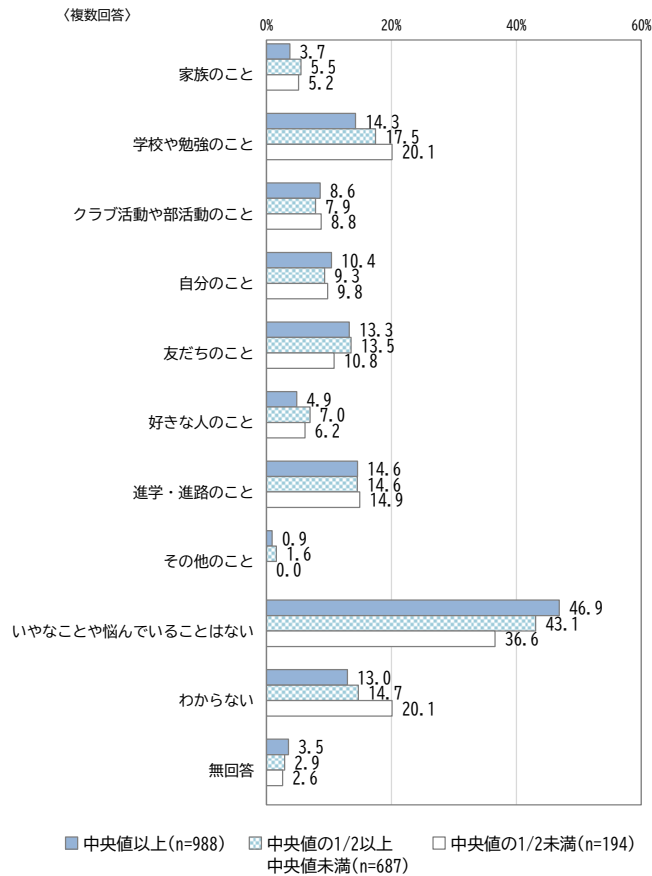
(3) 困っていることや悩みについて

- 全体では、「いやなことや悩んでいることはない」が44.3%と最も高く、次いで、「学校や勉強のこと」が16.3%、「進学・進路のこと」が14.7%となっています。
- 世帯収入別にみると、収入が少なくなるにつれ「学校や勉強のこと」「わからない」の割合が高くなっています。

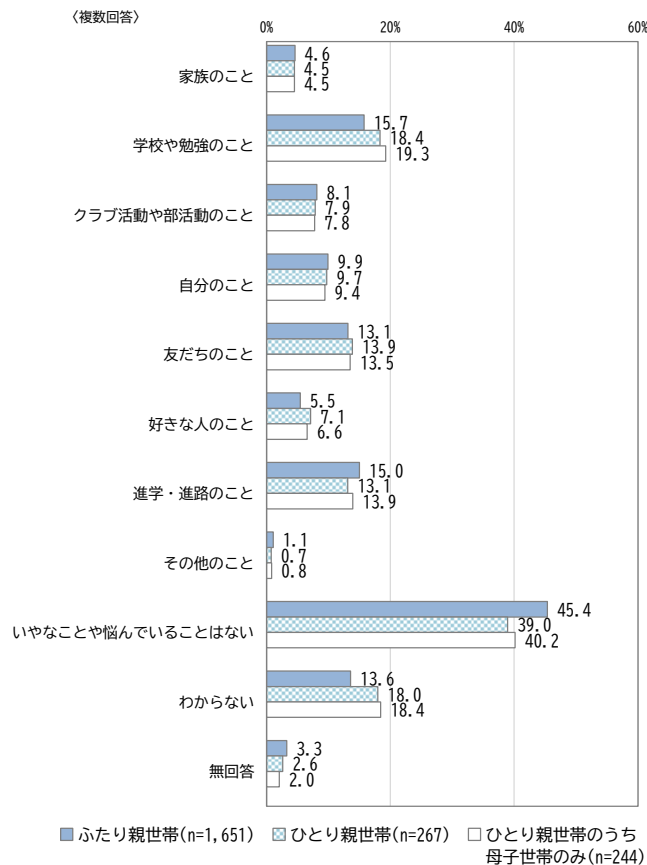
■今、いやなことや悩んでいること（小・中学生 問19）



■世帯収入別



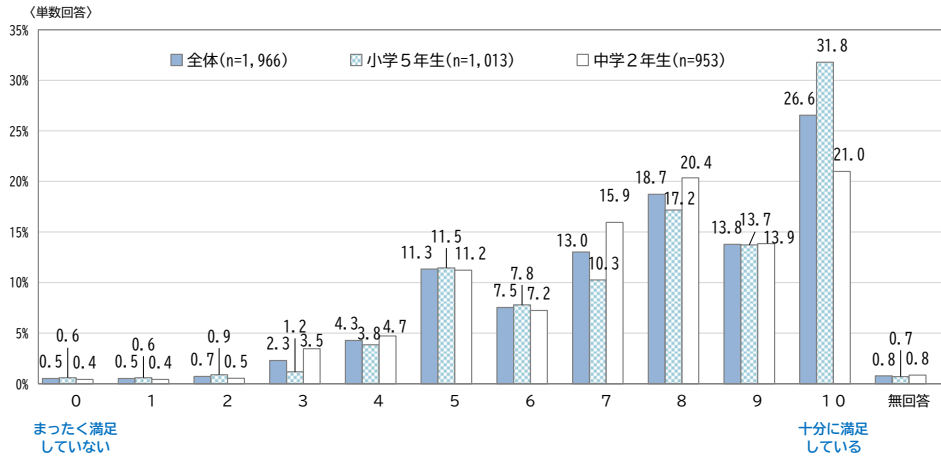
■婚姻状況別



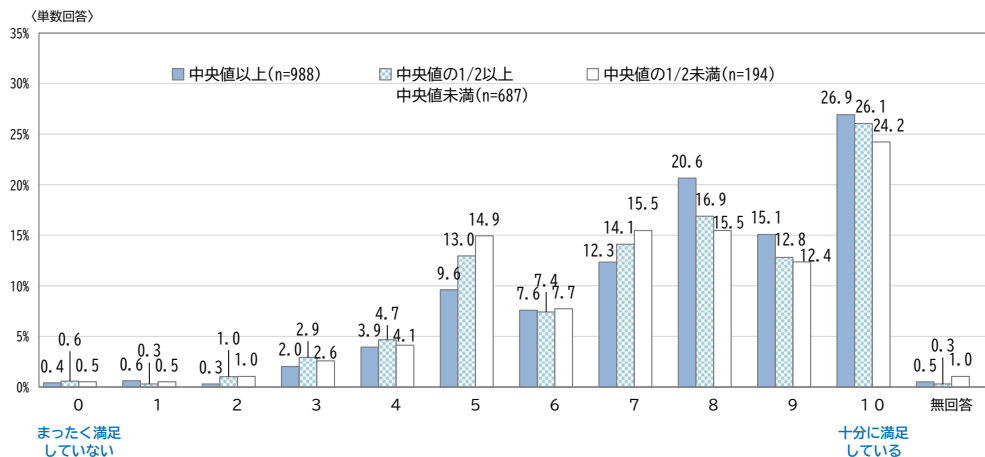
(4) ふだん考えていることについて

○全体として最近の生活の満足度を「0（まったく満足していない）」から「10（十分に満足している）」の数字で回答してもらった結果、「10」が26.6%と最も高く、次いで、「8」が18.7%、「9」が13.8%となっています。

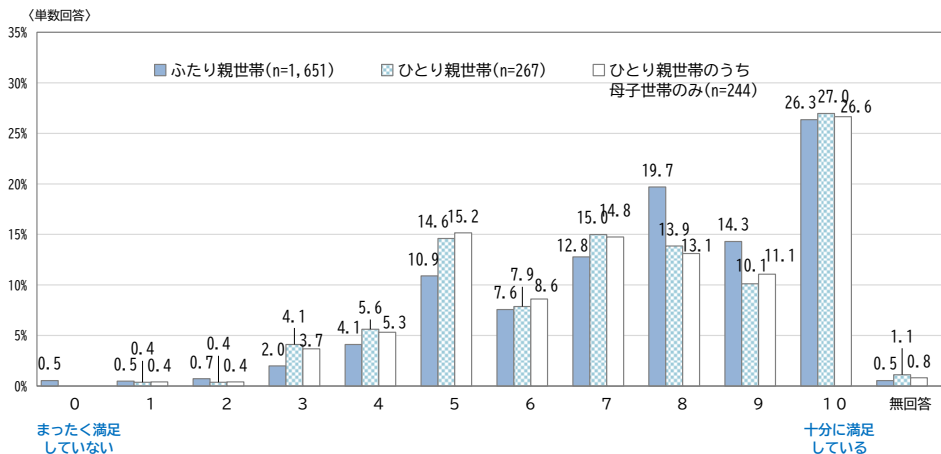
■最近の生活の満足度（小・中学生 問21）



■世帯収入別



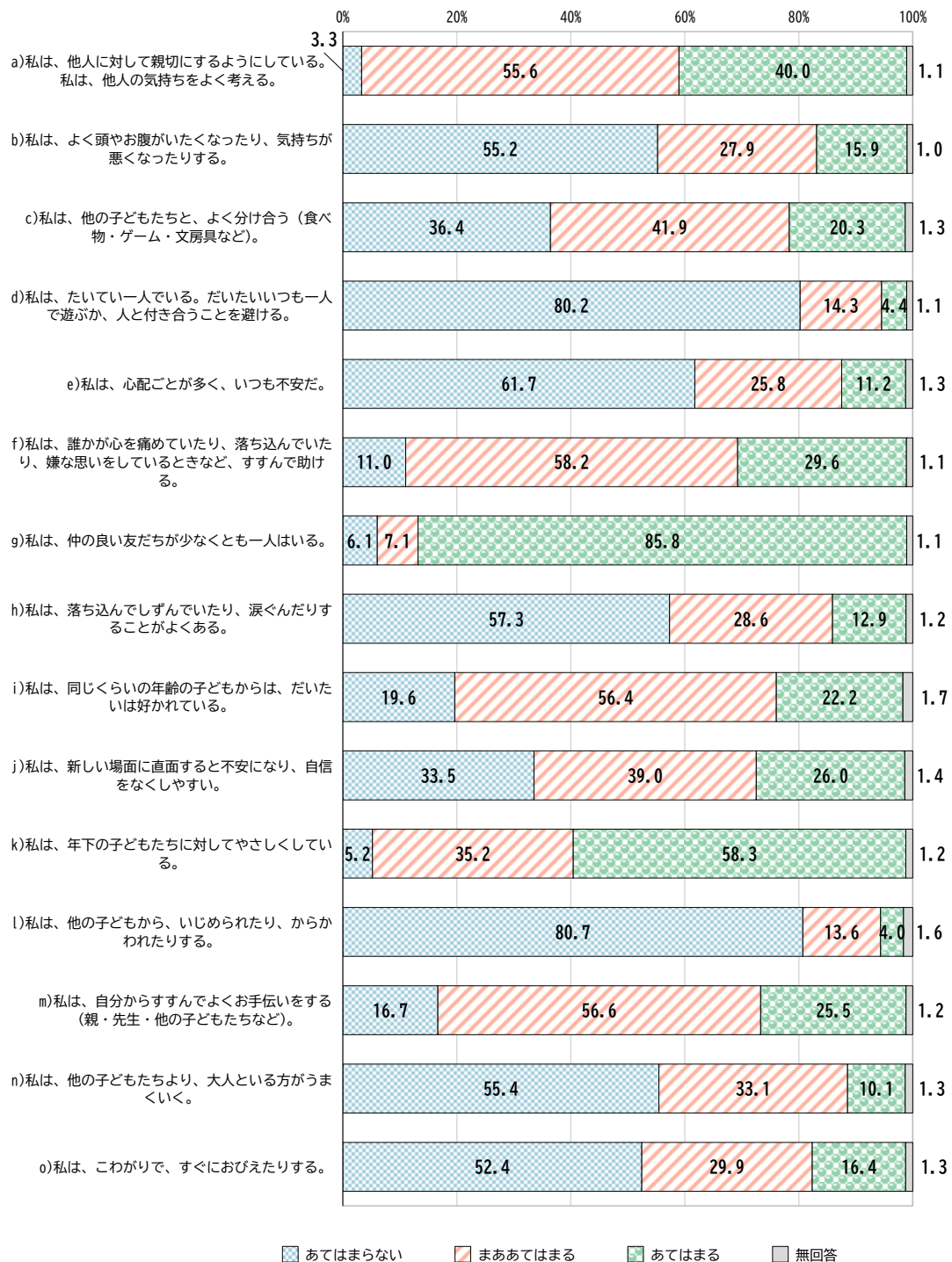
■婚姻状況別



○a)～o)の項目について、世帯収入別にみると大きな差はみられませんでした。

■ここ半年くらいのことを考え（小・中学生 問21）

〈単数回答〉n=1,966

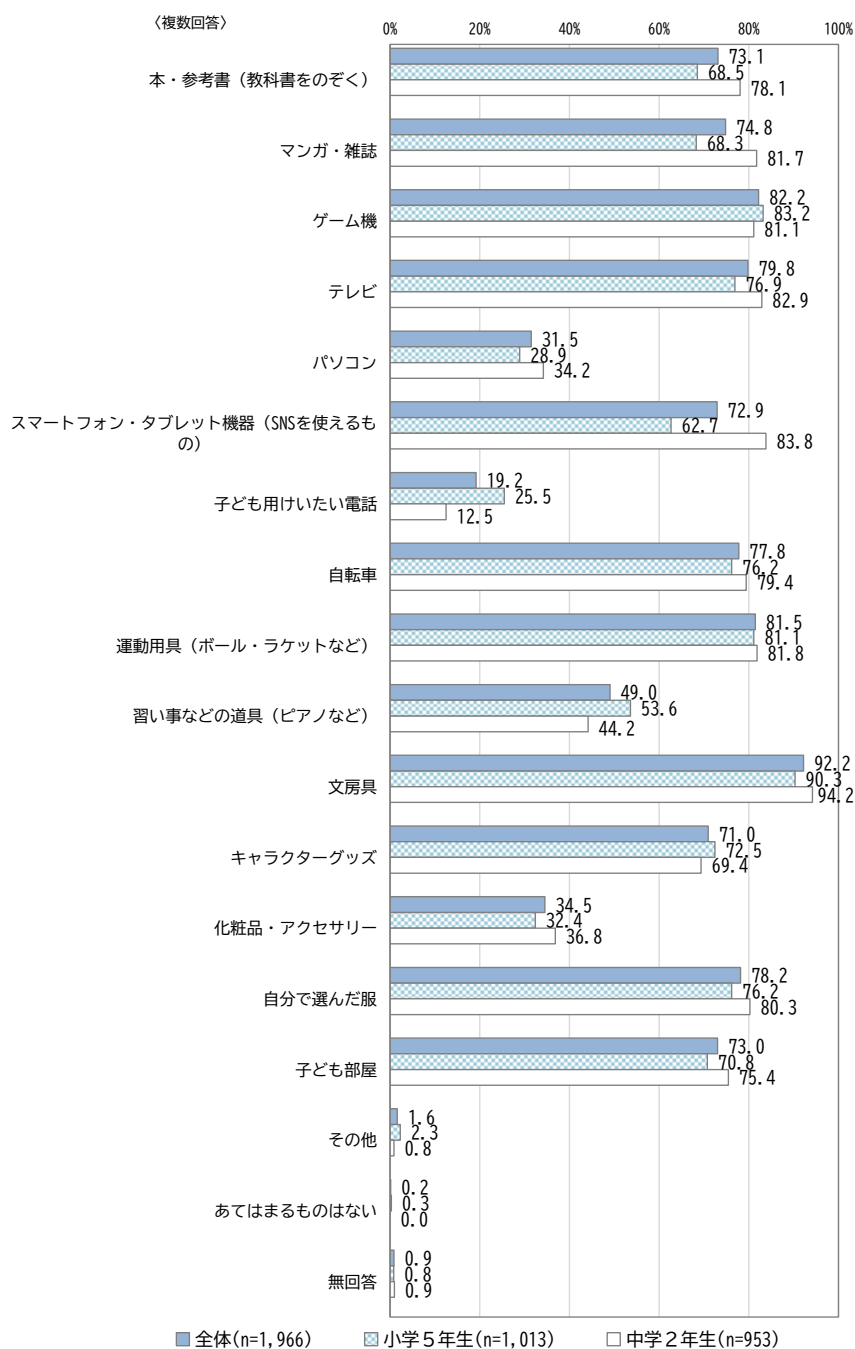


(5) 持ち物やおこづかいについて

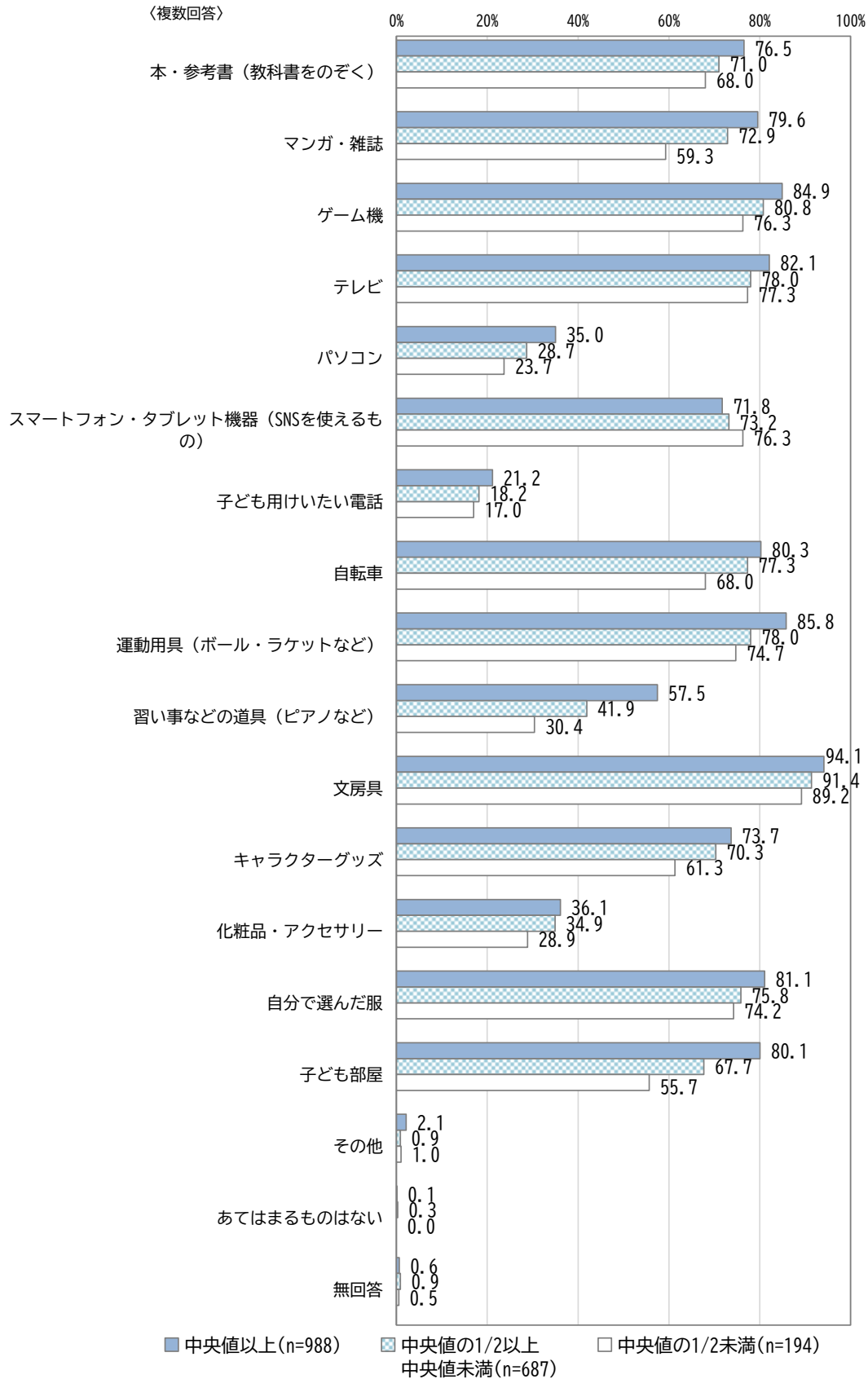
○持っているものや、あなたが使うことができるものについては、全体では「文房具」が92.2%と最も高く、次いで、「ゲーム機」が82.2%、「運動用具（ボール・ラケットなど）」が81.5%となっています。

○世帯収入別にみると、ほとんどの項目で世帯収入が少ないほど割合は低くなっている一方、「スマートフォン・タブレット機器」については、世帯収入が少ないほど割合は高くなっています。

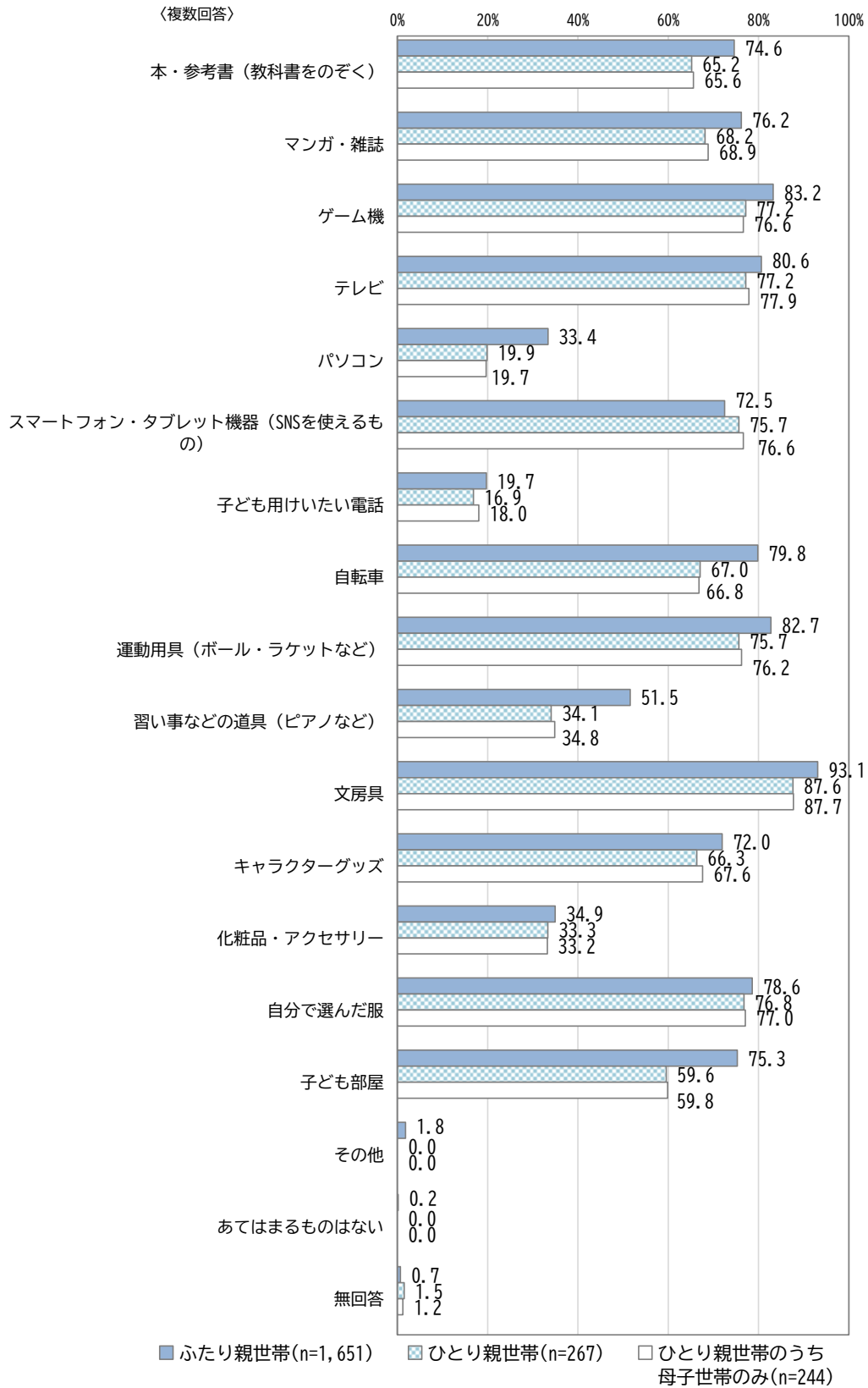
■持っているものや、あなたが使うことができるもの（小・中学生 問26）



■世帯収入別



■婚姻状況別

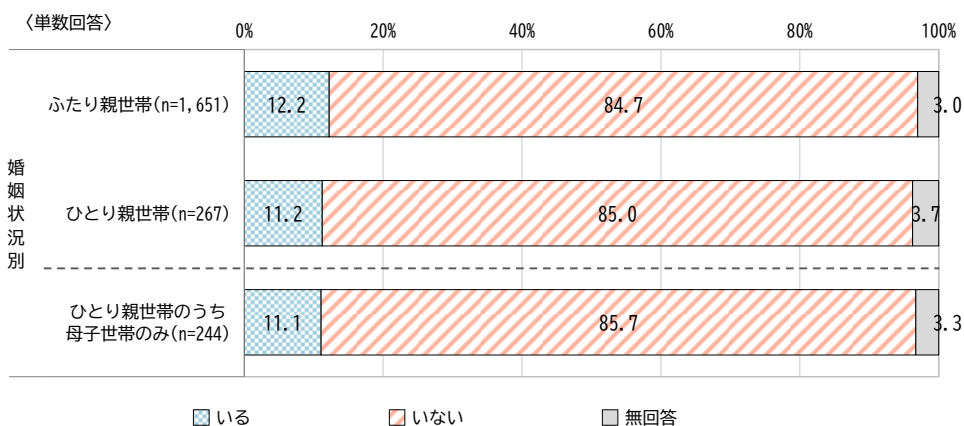
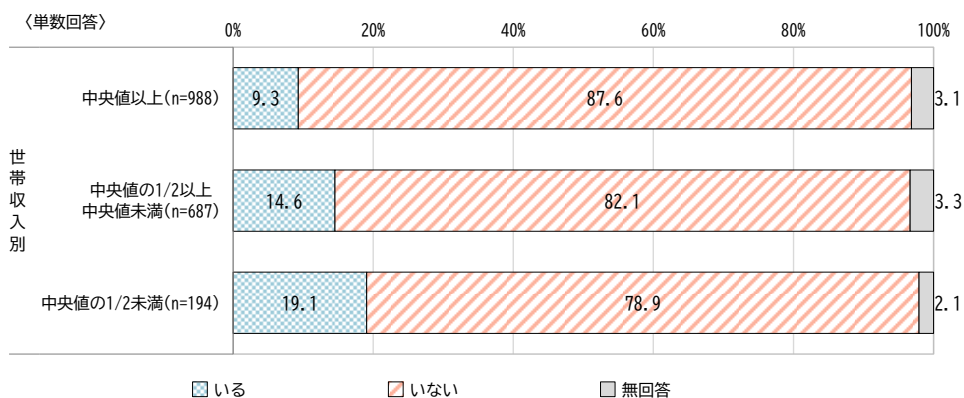
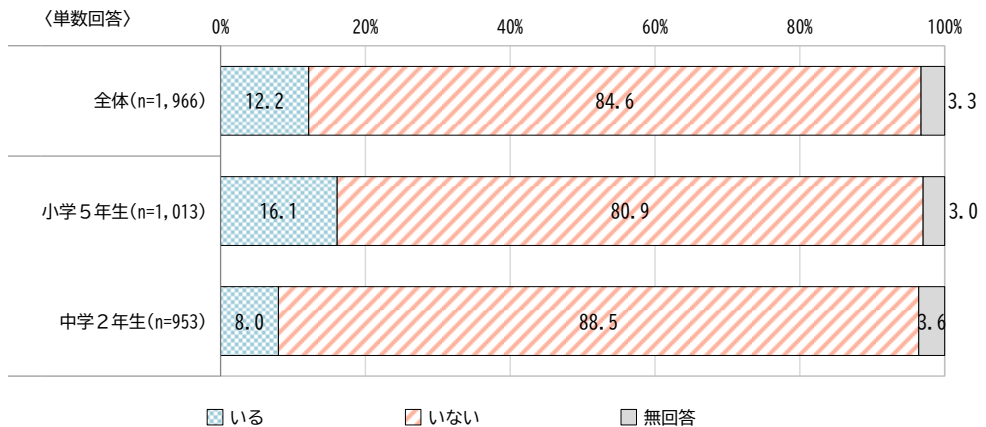


(6) あなたの家族について

○世話をしている人が「いる」と回答した割合全体では、「いる」が12.2%、「いない」が84.6%となっています。

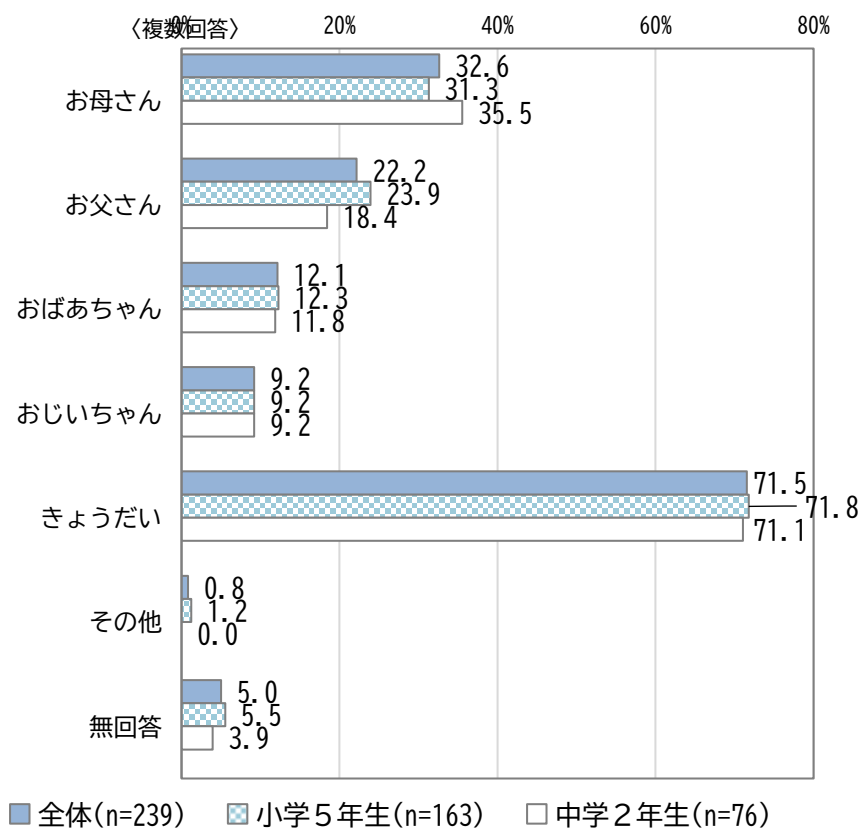
○世帯収入別にみると、収入が少なくなるほど「いる」の割合が高くなっています。

■あなたが世話をしている人がいるか（小・中学生 問29）

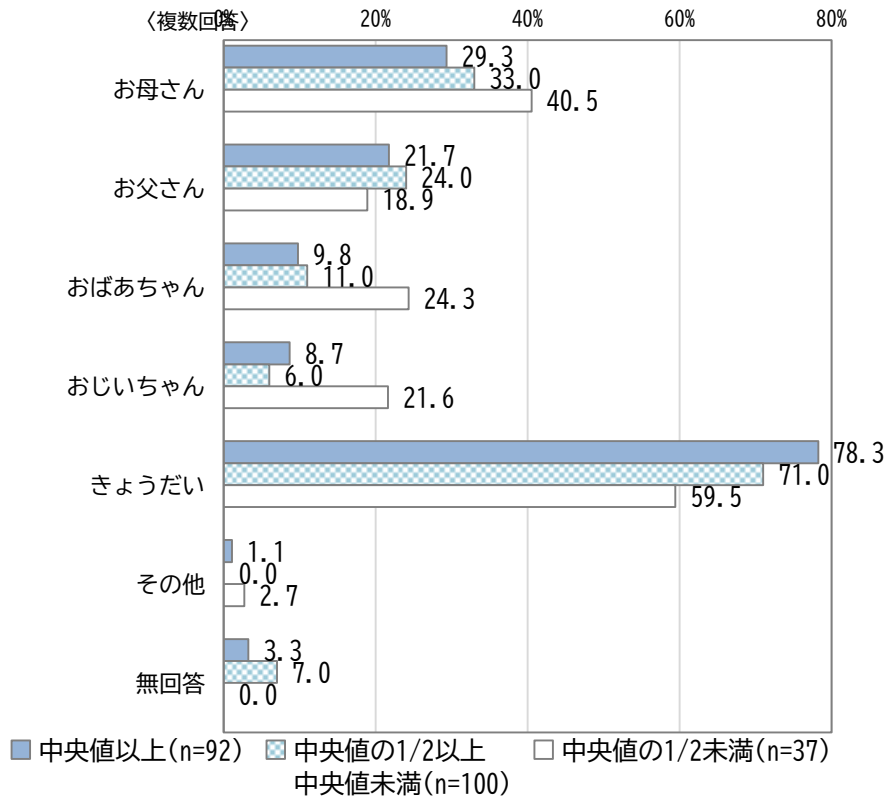


■誰(だれ)のお世話をしているか【問29で世話をしている人が「いる」と回答した方のみ】
 (小・中学生 問30)

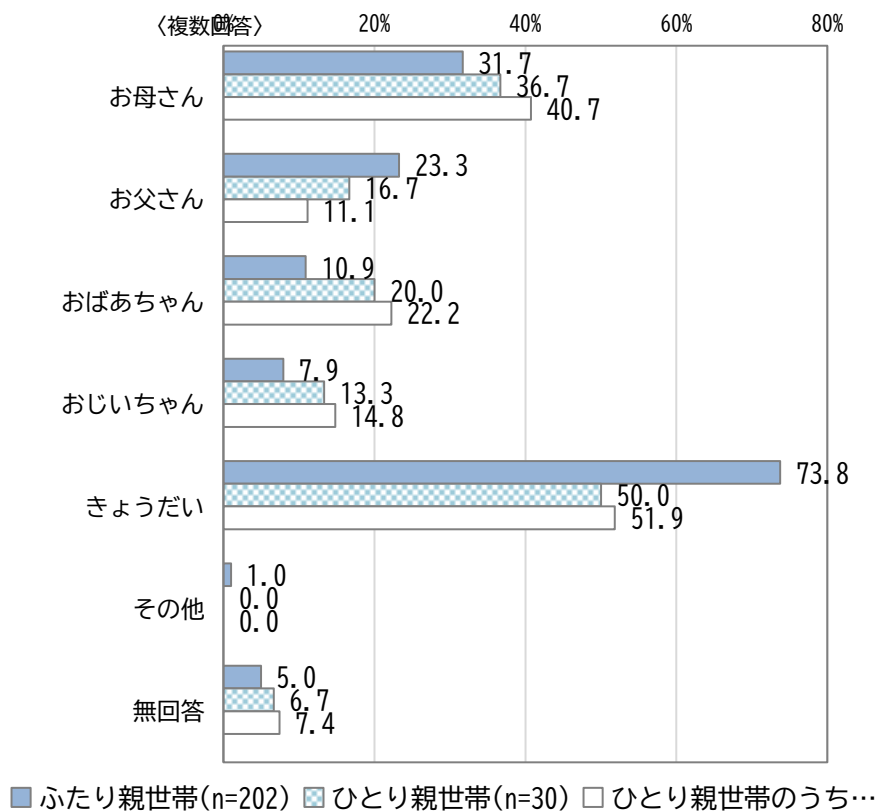
○全体では、「きょうだい」が71.5%と最も高く、次いで、「お母さん」が32.6%、「お父さん」が22.2%となっています。
 ○世帯収入別にみると、「中央値未満」の世帯では「お母さん」「おばあちゃん」「おじいちゃん」の割合が他の世帯より高くなっています。



■世帯収入別



■婚姻状況別

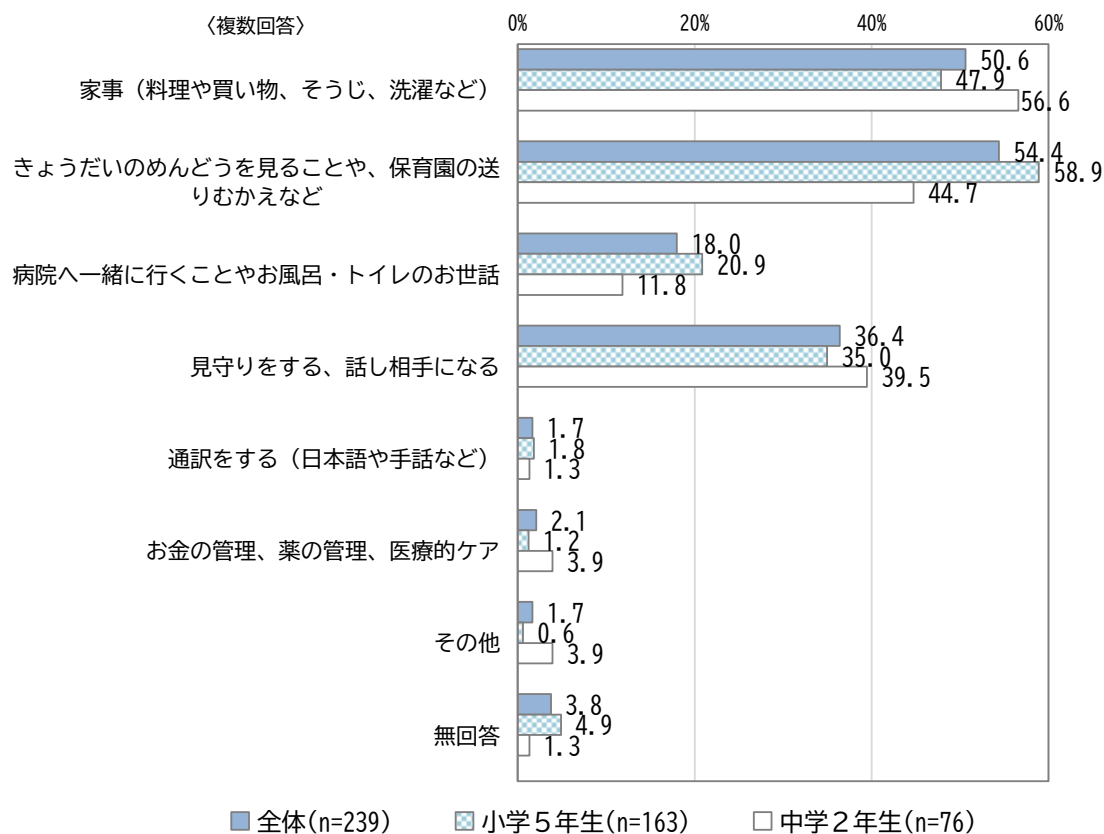


■お世話の内容【問29で世話をしている人が「いる」と回答した方のみ】

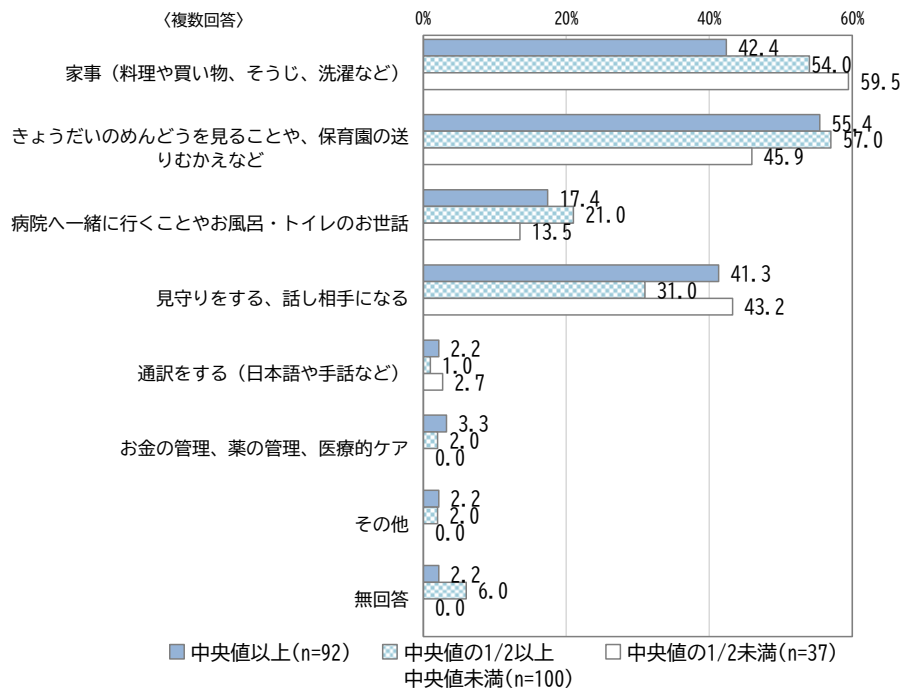
(小・中学生 問31)

○全体では、全体では、「きょうだいのめんどうを見ることや、保育園の送りむかえなど」が54.4%と最も高く、次いで、「家事（料理や買い物、そうじ、洗濯など）」が50.6%、「見守りをする、話し相手になる」が36.4%となっています。

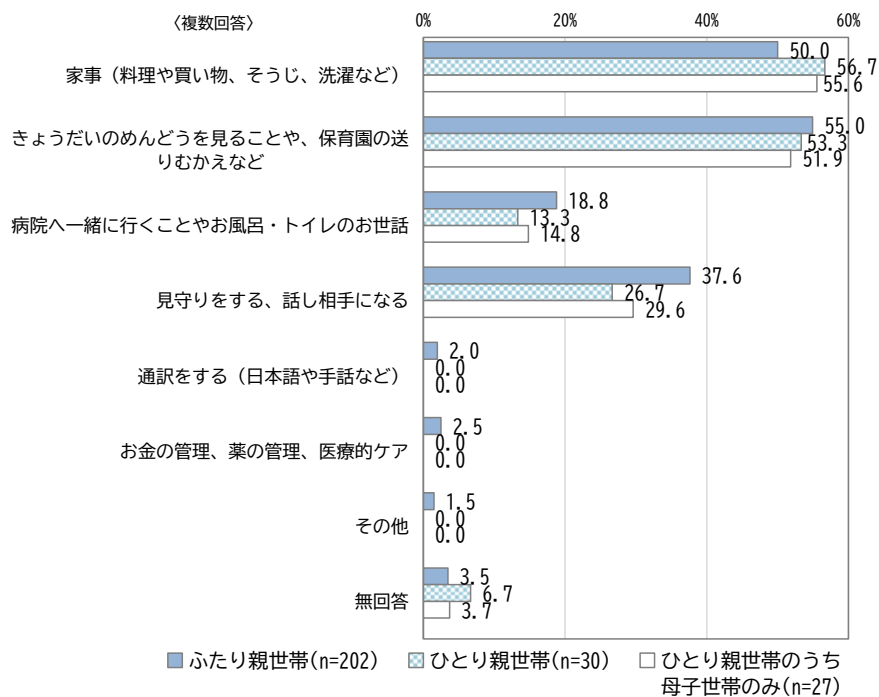
○世帯収入別にみると、収入が少なくなるほど「家事（料理や買い物、そうじ、洗濯など）」の割合が高くなっています。



■世帯収入別



■婚姻状況別

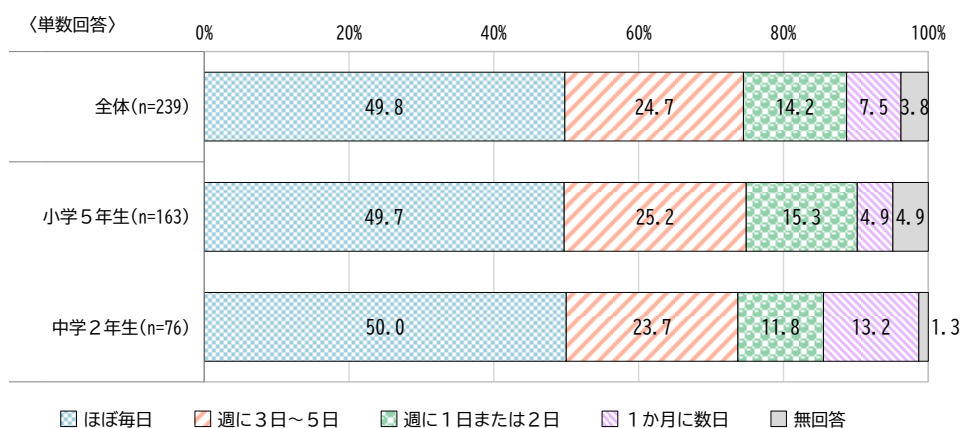


○全体では、「ほぼ毎日」が49.8%と最も高く、次いで、「週に3日～5日」が24.7%、「週に1日または2日」が14.2%となっています。

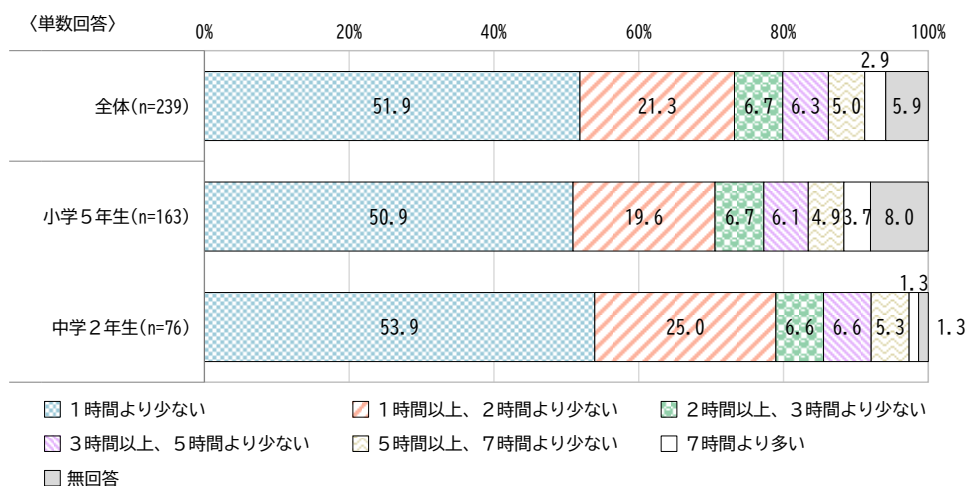
○全体では、「1時間より少ない」が51.9%と最も高く、次いで、「1時間以上、2時間より少ない」が21.3%、「2時間以上、3時間より少ない」が6.7%となっています。

■お世話の日数【問29で世話をしている人が「いる」と回答した方のみ】

(小・中学生 問32)

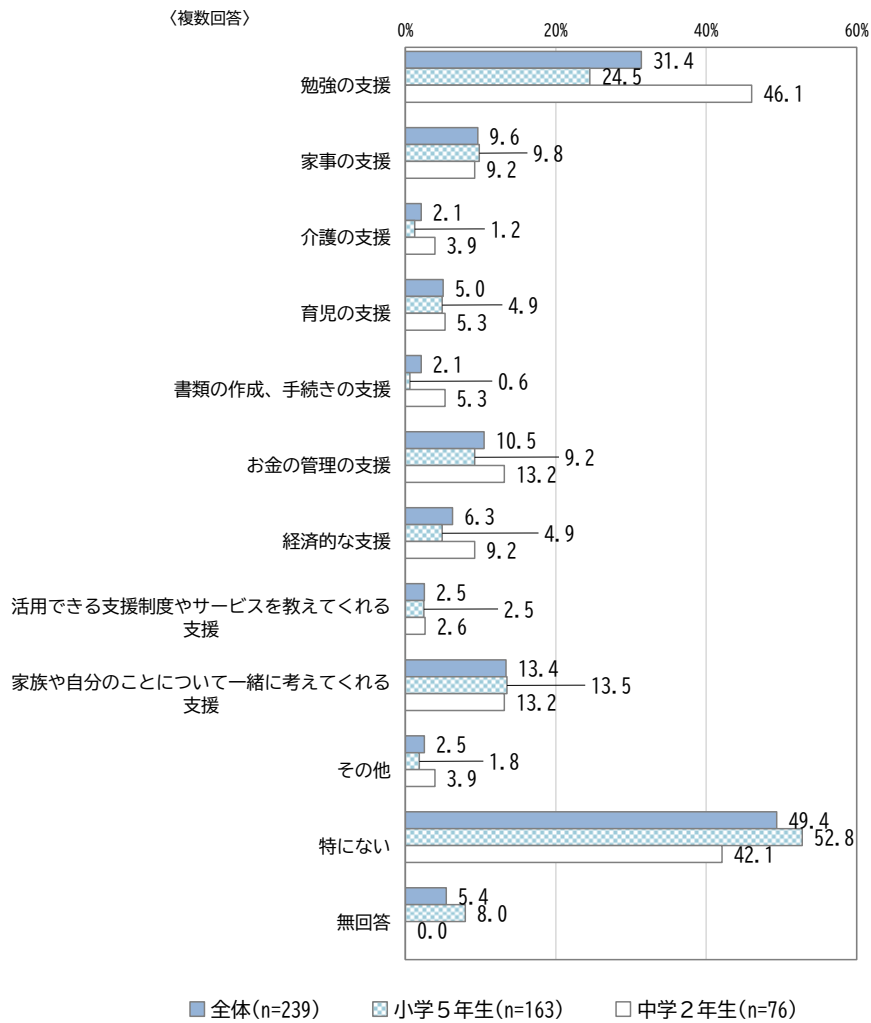


■学校に行く日のお世話をする時間【問29で世話をしている人が「いる」と回答した方のみ】(小・中学生 問33)



○今欲しいと思う支援については、「特にない」が49.4%と最も高く、次いで、「勉強の支援」が31.4%、「家族や自分のことについて一緒に考えてくれる支援」が13.4%となっています。

■今欲しいと思う支援（小・中学生 問34）



■毎日の生活で感じていることや必要な支援などを自由に記入してください。

(小・中学生 問35)

カテゴリ	件数
親・家族・大人全般について（要望・感謝）	111
今の生活に満足していること	83
学校のことについて（宿題，学校設備，給食，先生など）	65
友だち関係について	48
勉強・塾に関すること	40
要望等（ゲームが欲しい，遊ぶ時間が欲しい，〇〇を作 てほしい）	38
経済的なことについての不安	24
部活について	14
地域の遊び場・居場所について	13
将来について（夢に向けての意気込み，進学への不安など）	10
生活環境・道路・まちづくりに関すること	7
アンケートについて	3
その他	41
回答者数	497

